

第六期長期計画・調整計画市民会議（第2回）会議録

グループ討議：行財政分野

■日時 令和4年6月26日（日）午後1時から5時

■場所 武蔵野市役所 812 会議室

1 開会、事務連絡

事務局より本日の会議の進め方等について説明した。

2 グループ討議

「健康・福祉、子ども・教育、行財政」の3分野について、グループに分かれ議論を行った。各分野の議論を始める前に、事務局よりその分野の現状の課題やこれまでの取組みについて説明をおこなった。

【Aグループ】

○E委員

最初にそのプロジェクターに載っていた東町1丁目の市有地の利活用。この問題は、地域としては一切認めておりません。市の企画そのものを。市では検討委員会報告書を議会に出して、中間まとめをつくったんですけれども、住民に対して、もともとその説明というのは極めてナンセンス。勝手につくって。いつも市民参加、市民参加とさんざん言うておいて、その機会すら与えていないんです。これを代弁して伝えておきます。

○D委員

私もよくビラが張ってあったので、何で反対するのかなと、背景が何かよくわからずにいたんですけれども、バックグラウンドはどういうことなんですか。駐輪場だったんですか。

○E委員

ここは平井医院というお医者さんで、お医者さんの意向物件だから、お医者さんの意向に従ったものしかできませんよという話だった。そこがさっき言ったように、ちょっとこれがお医者さんの、でも、福祉に関係しているんじゃないの、みたいな形で子どもの地域館みたいなものを建ててもいいんじゃないのと。個人的な感想です。ほかの部分とは違う

んだけれども、そういった感想を持っていたんだけれども、それとはまるっきり違う方向の市の中間まとめが出てきたものに対して、何も説明する機会を設けてくれていない。それで市民参加というのは違うのではないか。

○D委員

お医者さんの土地で、それを武蔵野市に売ったんですか。

○E委員

寄附したんです。

○D委員

お医者さんが利用に関与しているとか、利用を指定したとか、そういうことですか。

○E委員

福祉関係のものにという意向。

住民としては、平井さんの意向に従ってやってくれという気持ちは持っていて、1回か2回は、住民だけの会合を開いている。それを行政に持っていった。だけど、行政がそれを無視している。

○B委員

全然違うものが出てきたんですか。

○E委員

住民の意向、平井先生そのものの意向も何も組み入れていない。全然違うものが出てきた。

○B委員

それはいかんね。何でそんなことになってしまったんだろうね。

○E委員

あと、資産がどこかで言われていますでしょう。市の資産を有効に利活用すべきではないか。皆さん、市の資産と言えるかどうかはわからないけれども、武蔵野には美術館とかがあって、寄贈されたものだとか、時に物納されたものもあるんですけども、そういう絵画類はどのくらいあるのか。私、データは最新ではない、20年前のデータなんだけれども、武蔵野に1,400点ほどの美術品がある。20年前で1,400点ですから、その後ふえているかもしれない。芸術品は資産として評価されているのかということが市の決算報告に一切上がってこない。芸術品が専門家のところにちゃんと置いてあるんですよ。その管理費は払っている。それで私が思っているのは、芸術品の価値観をどういうふうに評価して

いるのかなという。資産評価をしているのか、していないのかということがわからない。一方で、かかる経費だけ計上している。民間の専門の人に任せている。そこら辺の資産の云々は芸術品は関係ないのかなと。

あと、冒頭お話ししたように、全て時遅しなんだけれども、駐輪場を売却してしまった。その売却、買い手のほうは、十数倍の利益。角地にこういう駐輪場の建物があって、一方で、こんな細いビルが隣にあったと。この駐輪場は大通りに面している。ここの土地を買えば、資産価値がとんでもない価値が出たんです。その駐輪場の土地に使ったものを売却してしまった。その代替として、現状の駐輪数量が少ないんです。ちょっと計画の数字上も合わないのではないかと思います。

○B委員

三鷹の駐輪場もどんどんなくなっていきますよね。利用者がいなくなっているんですか。

○D委員

リモートワークになって、利用者が減っているということもあるんじゃないですか。

○E委員

一時的には減っています。今後、そういう生活のパターンになってくると。

○B委員

駐輪場もあんなに大きなのは必要ないのだろうという判断なんですね。

○E委員

かもしれないけれども、一方で、要は駅に近い。要するに、生活の普段の買い物なんかにも利用できる近隣の場所であるにもかかわらず、それを売却してしまう。

○D委員

売却した土地は駅にもっと近いんですか。

○E委員

近いんです。電気屋さんの隣のところです。超一等地ですよ。それを手放してしまった。そこら辺も全然市民の言うことを聞かないで、さっさとやっちゃう。だから、行政がだんだん、そういうこともそうだし、心配なんです。結論が出るときにはおかしくなっている。行政そのものの仕組みを組んでくれる。かなり読んだけれども、仕組みを組んでくれるお役人の方は本当に立派で一生懸命やっている。だけど、最後の結論になると違う方向へ行っている。肝心なところが。そこら辺がちょっと認識を新たにしてほしい。

○B委員

そんなことがずっとこれからも続いていったら困りますよね。

○E委員

市民自治、市民自治と言っても、コミセンに地域としてのルールをつくってほしいからそうやってきた。あとはお任せ、よろしくという感じ。いざ何か言うと、市民自治、市民の意見をくむんですと言っているながらも、結論が出るとあとは聞きません、みたいな。

○C委員

今の結論ありきでやっちゃったというところに問題があるのではないかな。

○D委員

議会だとか、その辺がネット配信したんしょうけれども、隠れた部分もあるし、議論をしている場でも、全部じゃないんだろけれども。

○E委員

議会に相談する前に、委員会に上がらない。まず、そもそも委員会みたいのところに入ってくるんですけども、審議会の委員会に入る。審議会の委員会に入るんだけれども、ほとんど決まっているんです。ひっくり返すことができない。それで委員会に入って、決まっちゃって、それから議会に持って行って。

○A委員

ちょっといいですか。行財政ということで、市のほうからこれを参考にしてくださいと。これを拝見していて、後ろのほうにアクションプランがあって、そこに行政のほうの年次計画というのが事業ごとに出ているんです。その中に、例えば、市民の意見を聞く年次とか入って、特に、今、E委員がおっしゃられたような取組みとか、事業について、ここには書かれていないんですけども、重点的な施策とか事業は、できれば早期に、短期に、スピーディに実現しなければいけないものと、あとは丁寧に市民や多方面のご意見を伺いながら、聞くことを重ねて、そこで結論を導くことというのがわかるように。もしかしたらスピーディに対応しなければいけなかったのかもしれないですね。でも、その辺が、どれが早くに実現しないと、次のほかの事業とかに関連するんだよという体系化されていることもあるかもしれないし、一方で、市民の意見を丁寧に聞いていきましょうよというところが事業ごとに見えてくるといいなと思うんですね。だから、何年に何をやると丁寧に書いてくれているんですけども、ここに書かれていない事業もあるので、できれば、こういう事業、取組みをこれからやるんだといたら、必ずこういうようなフローがわかるといいなと思います。

○B委員

現時点で言うと、これに乗っかっているやつは丁寧にやってみようという感じなんですかね。

○A委員

丁寧というか、市民の意見を聞く段階もありますし、それは引き続き実施していくんだよというのがありますし。

○B委員

乗っかっていないものは、そういうふうにそそくさと決まっちゃったみたいな感じですかね。

○A委員

これはどうなんだろうな。行財政改革アクションプランに乗っかってくる事業ということで選ばれていると思うんですけども、全ての事業がこういうのに載ってくるというのかなと思うんです。結局、計画は何年かに1回立てるとか、改定されるという、その何年かのスパンの中で、毎年、バランスシートとかは出ると思うんですけども、今の進捗が市民の方々にわかりやすく出てくるといいと思うんですね。今は市民の意見を聞いている段階ですとか。

○D委員

それも10年スパンで考えたときに、最初の5年間でそれを見直しをするという感じで書いてありますけれども。

○A委員

結局、今回、こういうグループ討議をしなければいけないとなって、長計だけではわからないから、深掘りするじゃないですか。ほかの計画で見ると、出ているものもあれば、掲載しているものもあれば、出していないものもあって、結局、計画を立ち上げようとしているのに、それが今できているのかどうかというのが、3年スパンとか5年スパンで出てくるので、今の状況はよくわからない。それは、私の探し方が足りないのかもしれないんですけども、そういうことで、E委員がおっしゃっていることで、市民の意見を聞く段階というのが、事前に発信されるべきなのかなと思います。

○B委員

その市民の意見を聞こうと思っているんだったら、そういうアクションをしたほうがいいですね。聞いているよ、みたいな建前だけでそれがいくのであれば、今のやり方、何

か知らないうちにそんなになっていましたでいいのかもしれないけれども。

○D委員

中長期計画は、そういう層別はあるわけなので、短期計画に関しては、待ったなしで議論して、ワッと決まってしまうというのがあるのではないかと思うんですけども、そこら辺の層別、市民参加と言うからには、明らかにしないと困ってしまいます。

○B委員

市民参加と言われている以上、何でも参加できるみたいに思いがちですよ。

○D委員

人口が2023年で外国人を入れて15万人。2048年に16万人。そのときに生産年齢人口がどんどん、約10ポイント落ちるんですね。そのときに市の財政はどうなっちゃうの？という感じだから、そこら辺、今、たしか680億円ぐらいで健全財政ですよと言っているけれども、そのときに生産年齢人口を10ポイントぐらい落ちているので、当然、税収も落ちてくるだろうし、そういうときにどうするかということがあると思うんですけども、それが見えない。

そして、あと、外国人比率が2.5%に対して、将来2.7%。外国人がふえる。さっき言ったような、この辺で外国人が来て滞在していることは実際に起こらないということで、いろいろな面で、いわゆる低賃金労働でやってくれている。そのときにまた困ることが出てくるのではないかというのがあります。

○E委員

市民そのものが、そもそも担税力のある市民がいっぱいいらっしゃるから伸び悩む。武蔵野がいいまちであるならば、担税力のある人が住み続ける。日本で、これからまた団塊の世代が塊になって、ここから先、20年でどう生き残っているかわからない。その一方で、税収が入ってこなければ、出せる負担は減ってくるはずなんです。ここは絶対ふえない。減ってくるはずなんです。

個人が担税力が非常に高い人が多いから、武蔵野の税収が高い。いいまちを続けないと、いい人材は入ってこない。

一方、ホテルをつくりましょうという話が業者から出ている。環境によろしくないという反対運動をしても、旅館業として建築許可ができています。環境によろしくないというよりも、事業そのものは、基準をもうちょっと、こういう事業はできませんよというのを申請の段階でやっていくのか。そういうような、用途を、地域をしめておく。そういうとこ

ろとやっていけば、今みたいな問題は起こさないだろうと思うけれども。

○D委員

新しい企業を誘致する場所が武蔵野市にはない。

○E委員

大きな企業を誘致する場所はないけれど、要するに、税収が上がるような企業であるならばという話で、それだけある市民がいっぱいいるからいいけれども、これが少子化という形になると、じゃあ企業収入がという話になる。

○A委員

大企業とか、面積を必要とする企業を誘致しようとする、かなり武蔵野市の場合に余地が少ないので、難しいのではないかなと思うんですけども、例えば、空き部屋だとか、IT化でお仕事をされていらっしゃるのであれば、空き室を利用したり、知的産業系の方々を誘致してというのは、手としてあるのではないかなと思うんです。

○D委員

シリコンバレー化みたいに、知財関係でこっちに何かつくる。

○A委員

知的産業とかサブカルチャーの方々というので、あまり面積が必要なく、ビルの貸部屋で起業ができる方たちをたくさん来ていただくというのはあるかなと思ったんですけども。

○D委員

ジブリが井の頭のところにあるけど、ああいうアニメ産業を持ってくるとか、サブカルチャー的なもの。

○A委員

漫画が結構スタジオはありますよね。

○E委員

武蔵野でたしかアニメまつりというのをやっているはずですよ。

○D委員

あれは武蔵野市の主催じゃないんですけど。

○E委員

あれは多分、吉祥寺の商店会。

○D委員

商店会でしょうかね。確かに、土地の高いところに製造工業を今さら建設するというのは難しいから、そういうのがいいかもしれないですね。

○C委員

確かにそういうのを誘致しようとする、市自体の用途を上げていかないといけない。土地が狭いとなれば、いつまでもいまの状態が続くとは、たくさん税金を払っていただいて、いつまでいるかわからない。来てもらうためには、市の魅力を上げていかないといけない。

○B委員

住みたいまちナンバーワンとかと言われてはいますけどね。

○A委員

話が変わっていいですか。公共施設のことですけれども、公共施設等総合管理計画を見ると、これからかなり、公共施設の維持管理を含めて、それを保持していくためのお金がかかってくるということで、市民1人当たりの施設の保有量を当面は1人当たり2.08平米を上限としましょうということで書かれていたんですね。でも、これから福祉系の施設が少しずつ望まれていくんじゃないかと思うんですね。一方で公共施設の中で。そうすると、学校施設も書かれていたんですけども、これから改築しようとする、機能を複合化しようかと書かれていたじゃないですか。そうすると、既存の施設の機能を複合化とか、いろいろと利用ができる多機能化を考えていかなければいけないと思うんですね。学校だけではなくて。福祉施設のこれからのニーズの増加と、いろいろな市民の多様なニーズもあると思うので、1つの分野でその施設を考えるというよりは、市の行政のほうの分野横断的にいろいろとマルチに利用していくということ、今、考えていってくださっていると思うんですけども、もっとより考えていってほしいなと思うんですね。

そこで、もしかしたら、面積が頭打ちで、複合化することのデメリットを問わないで、分野が輻輳することで新しい価値が生まれてくるのではないかと。学校の教育と福祉がくっつくとか、一元化で捉えないで、どんな相乗効果があるかなというところも行政のほうで横に横断して、より考えていってほしいなと思ったところです。

○E委員

うちの地域でも、学校とお年寄りの老人ホームが吉祥寺にはあまりないので、そういうホームをつくってほしいという意味合いで、学校そのものは、生徒数が少なくて教室が空いてきているんです。そこら辺で、複合的なことで。そうしたら、子どもたちのボールが

飛んできてぶつかったらどうする。そんな発想じゃないんだけど、というのがあったんだけど、なんとかかんとか、人が集まって、かろうじて2クラス維持している。そういう点で、かろうじてやっているから、かなり余裕があるんです。それで、もっと複合的なものを考えてもいいのではないかな。場合によっては、1つあけたほうを老人ホームにしたほうがいいのではないかな。こんな考えも出たことがあるんです。

○A委員

意外な組み合わせもあるかもしれないですね。今まで常識で考えていない。

○B委員

今、一中と五中が改築に入っているじゃないですか。改築検討委員会を傍聴しに行ったことがあるんですけど、建物のフロアの完成予想図が出てきたとき、その中に、コミュニティスペースみたいなものが入っているんです。コミュニティスペースって何なんだろうなと思っていたんですけど、教育委員会の話を聞いていると、学校自体が地域のプラットフォームになっていきましたみたいな形で、教育委員会は学校を進めていきたいみたいなことを言っていたのとあわせて聞くと、新築する学校の中にコミュニティスペースの部分をつくるということは、ある意味、地域の人たちとの交流が学校の建物の中でできるという発想なのかなと、今、ちょっと思っていたりするんですね。

でも、そうすると、そもそもコミュニティのためにつくった各地域にあるコミセンの建物自体、その役割と、学校が拠点になるコミュニティづくりの役割のすみ分けみたいなものもこれから必要になってくるのかなと。学校は、教育というのがベースにあると思うので、コミュニティづくりというのも、教育に根ざした、関係したコミュニティのあり方みたいなものを追求していくとしたら、まるっきりコミセンのコミュニティのあり方は、それとは全く別に、本当に地域の住民のつながりをベースに考えていくとすると、2つやっぱり必要になるのかなという気も。私の中でどっちかがなしになるのはないのかな。でも、どっちがなしになるのかな、みたいな。

○A委員

例えば、学校のコミュニティと、コミセンでもしかしてロビーとか、あるいは会議室があいているときに、何か販売をさせてくださいというのがあってもいいのかなと思うんです。民間の事業者が入って、こういう販売をしたいです。もう少し柔軟になってもいいのかなと思うんです。そこで、あれを売りに来るからというから。

○B委員

お店に行くみたいだね。

○A委員

そう。例えば、ファーマーズマーケットみたいに、武蔵野のお野菜の。

○B委員

今日は野菜の即売日ですみたいだね。

○A委員

ありますよとか、そういうふうな複合的な使われ方が。

○B委員

そうなってくると、先ほどA委員が言われたように、その部署だけが話せばいいという話じゃないんですよ。いろいろなところの知恵を出し合ってやっていかないと、同じものが何個もできてしまったりとかね。

○A委員

そうですね。さっき、介護予防でスポーツとおっしゃっていたじゃないですか。あれも、室内で介護予防運動をするだけではなくて、公園で利用されていないような公園が多いじゃないですか。そういうところにボランティアのインストラクターが行って、何曜日に介護予防運動をやりますよというような、室内だけではなくて、屋外も使えていけるといいなと思います。

○B委員

そういういろいろなアイデアは、その人たちが集まって、いろいろディスカッションとか、出し合ってやったらいいのになと思いますよね。1つところだけでやろうとするから、不具合が出てきて、同じものだったり、二重手間だったり、縦割りの仕組みがいかんのですよ。

○A委員

あと、公共施設だけではなくて、例えば、地域の神社の境内とか、東急裏の広場をよく利用されていますけれども、民有地なんだけれども、一般の人も入れる公共的なスペースをもっと誘導して使わせてくださいというのでもいいのかなと思います。頭打ちに施設の規模をそこで抑えなければいけないということであれば、知恵を使って、民間のところでも協力してくださいよ、みたいだね。

○E委員

コミュニティのところで、実際にこれはコミセンなんかでも、物を売ることがあっても

いいじゃないかという話があったが、コミセンは、営利を目的とするのは一切だめなんです。例えば、何かの講習をやる。そのときに、講習料をいただいてやるというものだったらやめてください。一切だめなんですね。そういう使い勝手が悪い。

○A委員

まずそこからですね。

○B委員

そうなんです。そもそもそこに凝り固まっている。

○E委員

そもそも民生のお金でできている。テンミリオンもそうだけれども、コミセンだって、地域住民のこういう声が多いですよといったら、それがもしお金が営利として行うものであっても、それを市民が必要としているのだったら、制度を変えて利用してもいいということをやっつけていかないと。

○D委員

コミセンの利用率みたいなデータはあるんですか。

○E委員

あります。

○D委員

それで有効活用されていないようなデータが出てきたら、それは変えてもいいんじゃないでしょうか。物の考え方としてそういう感じなんじゃないかと思うんですけれども。

○E委員

コミュニティ研究連絡会というのがありまして、毎年変わっているんだけど、事業評価というのを必ずやるんです。事業評価として、甲乙丙じゃないけれども、ランクづけみたいなものはあります。

○D委員

税収が上がるということになれば、有効活用して、何か即売会をやり出すとか、そんなのはどうかというように考えてもいいんじゃないかと思います。

○A委員

そうやって民間に開かれたというところの使用料をとって使っていただいて、近隣の住民も助かるというふうになればいいなと思っています。

○E委員

民間の活用といえば、行財政改革アクションプランの 16 ページに、福祉公社と市民社協を統合に向けた事業連携をします。この統合の仕方も変。平成 26 年ですよ。

○B 委員

平成 26 年からずっと検討しているんです。

○E 委員

見ると、ずっと統合されるよという話になっていて、そこから一向に進まない。

○B 委員

全然アクションプランじゃないですね。滞っています。

○E 委員

物の進行状況が、この辺がもうちょっと有識者にちゃんと考えてもらって。要は、経費もダブっているということ。

○B 委員

そういうことですよ。

○F 委員

考えていることを全部言っていたいでいるので、うなずいているだけなんです。ちょっと気になったのは、多様な人材の確保、育成と組織の活性化という話。これがどういうやり方をやっているよというのをもっとオープンにしてやってもらいたいのかなと思いますね。

あと、今、非常時に使いつぶすみたいなのが問題としてあるんじゃないかと。それが武蔵野市では果たして落ちていいのかどうかというのも気になっています。そういったところをオープンにして、武蔵野市はクリーンにやっていますよみたいな。クリーンという言い方は変ですけども、言っていただくといいのかなと思うのと、あと、障がい者任用というのがありますけれども、市報に載っていたのを見ると、年次に 1 人ぐらいですね。結構応募されている。そこももうちょっと拡大してもいいのかなとか、障がい者をこれぐらい任用していますよとか。だから、武蔵野市はもうちょっとダイバーシティというふうな言い方をしてもいいのかなと思います。

そうすると、障がいがあっても有用な方というのはたくさんいらっしゃると思うので、そういったところをもうちょっと吸引力というか、上げていってもいいのかな。そういった方は、物の見え方が違いますよね。なので、武蔵野市自体の長期的なビジョンとか、短期的なビジョンというものに対して、いい活性剤になるのかなと思っています。

○E委員

あと1点言い忘れたのは、吉祥寺南病院が何年か後に建て直すという話ですけれども、森本病院と吉祥寺南病院が統合して、新しい病院をつくろうという話になってはいるんだけれども、どうも話がうまく進んでいないんです。そういう状況なので、市民としてはすごい懸念されているんです。

○B委員

先ほどの、かかりつけ医とか地域医療のところの。

○E委員

地域医療の核になっていた。それは土地の用地問題でそもそもおかしくなってしまった。用途地域が大きくなれば、税金が上がる。要するに、2階建てしかできなかったものが3階を建ててもいいよという話になると、固定資産税が上がる。うちは建て直すつもりはないです。反対です。そういう方も当然いらっしゃる。病院に限り戸建て用途地域を変更しますよ、こういう方法をやればいいのに、それが行政の力でできない。

○A委員

F委員の意見はまとめるとどうですか。

○F委員

人材の確保に関して、ダイバーシティを意識した人材の確保をしていっていただければ、視野も広がるのかなという意見ですかね。ざっくり言いますと。

○B委員

いろいろな目線があったほうがいいですよ。何か決めていくときには。いつまでも裕福な財源ではないということですよ。

<発表>

○C委員

では、Aグループの発表をさせていただきます。

Aグループでは、市民参加の充実、情報共有の推進というところを見ました。

東町1丁目の利活用の問題。これの市民参加においては、住民が話し合った意見を市に上げたところ、市から違う方針を出されたといったところで、これは市民参加的にはどうかなという話がありました。

それに関連して、吉祥寺駅前の駐輪場の売却についても市民参加の決定のプロセスに関

題があって、どうだったのかという話が出ました。

そういったところで、市民の参加を丁寧に聞くものと、スピーディに行うものと、それぞれいろいろあると思うんですが、その辺は区別をして、うまく機能していただきたいということです。

健全な財政運営という意味合いでは、将来、人口が減るという中での将来性の財政がちょっと見えないから、これをどうしていくんだらう。本来、長期計画の中でも1つの問題点であったと思いますが、どういうことかといいますと、既存の今いる企業がいつまでもいるとは限らないと。そうすると、そこがなくなってしまうと税収がなくなるということも考えられますので、その辺は、税収を逆に高めるといった意味の方向性をいろいろ探ってみる必要があるのではないかと。そういった意味では、市の魅力を高めて、誘致をしていくとか、税収を高めるためにサブカルチャーを利用したりというようなところも考えていかなければならないと。

公共施設の管理計画というところでは、公共施設のあり方を、個々の公共施設個別ごとに考えるのではなくて、もうちょっと複合的に、多機能的に考えて、施設自体の機能性を高めるということもやっていく必要があるのではないかと。例えば、コミセンと学校を一緒にして機能を高めるということも1つの発想ではないかという話がありました。

それにプラスして、公共施設の利用を、規則に縛られず、営業目的のものの利用を考えていくというのも1つの案ではないか。それによって税収を得ていくという話も出ました。

あと、人材確保というところでは、ダイバーシティを意識した人材を確保するということを考えてもいいのではないかと話が出ました。以上です。

【Bグループ】

○I委員

では、進行は私のほうでやらさせていただきます。

今回、6番目の行財政というところで、これは意見が多いんだと思いますが。

では、なるべくスピードをもっていきたいと思いますが、ただ、時間も60分いただいたので、今言ったように、皆さんの意見をしっかり言っていただいたほうがよろしいかと思っておりますので、また順番にご意見を聞きたいと思っております。では、J委員からお願いいたします。

○J委員

行財政というのは深く考えたことがなかったので、難しいなと思うんですけども、住民投票制度を昨年やっていたけれども、これはやっているということを知っている人がどのくらいいるのかということがわからなくて。変な話、私は媒体を通じて外国人の方の去年やっていたあのことも、新聞とかラジオとかで、こんなことを今、武蔵野市ではやっているんだ。そして住民投票制度というのがあるんだというのを、恥ずかしながら、そのとき初めて知ったんです。そういうことがあるということやどの程度の住民の方が知っているのかなということと、当然、後から入ってきている人も武蔵野市は多いので、昔からずっと住んでいる方は意識しているのかもしれないですけども、途中で入居してきた方や、ましてや他府県で働いている方は、そういうことを知っていても、参加するとか、投票するということが自体、考えたことがないかもしれないなということやまず思ったんですね。

市民参加型と言っているんですけども、市民が参加するということができるという人がどれだけいるのかということがまず考えられることで、総合的に皆さんがいろいろなことをやるというのはもちろん賛成ですけども、地域でどれだけそういうことをやりますよということを、まず知っているか、知っていないかということが大きな問題ではないかと思っています。

財政になってしまうと、これはまた別問題になってしまうんですけども、人材の確保も専門性を強化していくとありますけれども、専門性を強化するためには、何らかの教育の支援みたいなものが当然必要だと思うんですけども、その点がどのように考えられているのかということも見えてこないで、ここにも最後のほうにありますけれども、一般技術の職とか、専門職となると、普通の学校では学べないことをやらなければいけないということなので、そういうものを育てるための事業がどのようになっているのか。

また、それに対するサポートする、例えば、企業なり何なりというのがどうなっているのかということや、なかなかうまく伝わらないということですね。だから、やってみたいなと思ったとしても、どういう方法をとるのかということがわからないと、なかなか先には進めないのではないかとということが考えられます。以上です。

○I委員

K委員、お願いします。

○K委員

基本施策2の広報・広聴というあたりがよくできているのではないかと思います。

ども、より一層、新しい技術、ICTの関係性とかですけれども、よりその点に力を入れることが風通しがよい。さっきの条例ももしかしたらそうなかもしれないですけれども、もう少し情報が行き渡っていれば、トラブルもなかったのかなというふうには多少思うんですけれども。広聴という言葉をあまり使っていなかったので、確かにこういう意見を拾い上げる手法というのは、ICTを使って、よりいろいろなことができるのではないかと、思って、この辺により力を入れたらいいかなと思います。

公共施設のリニューアルについては、私は前回言いましたけれども、災害時にどういふふうにするかという視点をぜひ入れて、学校は避難所にもなるはずですので、公共施設のリニューアルや、災害時、その辺の合意ができれば、しっかりとしたものをつくろうということになっていくと思いますので、単なる建て替えというより、いいチャンスですので、災害時にも活用するんだという視点をぜひ入れていただきたいと思います。以上です。

○I委員

災害時に何でしたっけ。

○K委員

災害時のことを考えて建て替え。

○I委員

災害時にも耐え得るような。

○K委員

そうです。もちろん学校は当然そうになっているはずなんですけれども、よりそういうことを前面に出したほうが合意も得やすいと思いますし、そういう設備が加わるのかもしれないですけれども、例えば備蓄倉庫をもうちょっと増やすだとか。

○I委員

シェルターを設けるとか。

○K委員

そういう視点があると、少し変わってくるのかなと。

○I委員

ただの建て替えではなくということですね。

○K委員

ただの建て替えではなくて。

○I委員

わかりました。広報・広聴はよくできているほうだと思いますか。

○K委員

客観的に比べているわけではないんですけども、市報はとてもよくできているとは思いますが、もっともっとできるような気がしますし。

○I委員

私も市報を見てこれに応募しましたからね。

○K委員

DXというのがここへ出てこないですけども、次に入るんですか。

○H委員

入れないとまずい。

○K委員

トランスフォーメーションとか。

○H委員

入れないとまずい。

○K委員

調整計画に新しくワードとしてDXというのが入ってくるのかもしれない。

○L委員

もう計画をつくっているし。一応112ページに。

○K委員

DXというワードは出てこないですね。

○L委員

このとき、なかったんでしょう。

○I委員

DXは最近ですものね。

○L委員

一方で、固定資産と申しますか、収入を増やすような施策もあるのではないかと。一方で、税金だとか消費税とかで堅調に。具体的には、武蔵野市の魅力をさらにうまく使って、インバウンドもそろそろ増えてきているでしょうし。

結論の財政面。これもネガティブな話ですけども、施設の建て替えということで、当時の前提より価格が上がるとお思いますので、あふれるというのもしていかなければいけな

い。財政のシミュレーションを注視していく必要があるのではないかなということ。

○I委員

G委員。

○G委員

広報ということですが、今、武蔵野市はとても頑張っていると思います。なんだけれども、市が幾ら頑張っても、読むほうが読まなかったら無理なんですね。このことは武蔵野市ではずっと言われているんです。どこでも言っていると思うんですけれども。都市型がある程度限界がきているので、ずっと同じことを言っても変わらないと思うので。

○I委員

何がですか。

○G委員

広報のやり方をずっと同じことを言っているんですよ。ずっと改善されないんです。必ず知らなかった。いつまでたってもそうなんです。これからも多分変わらないんです。

○I委員

つまり、広報のやり方が悪い。

○G委員

悪いというわけではないです。武蔵野市はいいと思います。よその自治体へ行ったら、もっと知らない人が多いと思うんです。武蔵野市は、市民参加と言うぐらいだから、気にしている人が多くて、知っている人が多いと思います。武蔵野市で聞いていないよと言ったら、よそへ行ったらどうするかと思うけれども。よそを見ると、防災無線を使っているところがあります。要は、文字は読まない。音は聞こえてしまうから、知りたくなくても知ってしまう。

○J委員

むさしのFMみたいなので流すと、嫌でも聞こえるんですけど。

○G委員

むさしのFMは聴取率が1%もっていない。それよりも「防災武蔵野」。

○J委員

ありますね。台風の時とか。

○I委員

防災無線は相当ですね。

○G委員

防災無線をやめて市報無線にしてしまう。

あと、どこかの自治体の議会がおもしろいことをやっていて、おもしろい議員がいるんです。議会報があるじゃないですか。あれもおもしろくないんですけども、そこは、議会が始まる前に週刊誌の中吊りみたいなので、誰がこういう質問をしますというのをおもしろおかしく書いているんです。それをチラシにしている。

○J委員

見るんですか。

○G委員

そうそう。もうちょっとおもしろくするとか。

○J委員

昔、スポーツ新聞で、見出しだけ見てというのが、中身はどんなのか。

○G委員

中身はおもしろくないといけないんですけども。

○J委員

でも、それだけでよくね。

○G委員

そうそう。

あとは、人が限定になってしまうけれども、通勤する人を狙って、駅で広報をするだけか。

○J委員

勤めている間だと、どうしても日中いないから、疲れて帰ってくると、市報を読むかといったら、そこまでなかなか細かく見なくて。だから知らなかったということが。ほかに読むものがあるんだもん、みたいな。

○G委員

学校で配られるプリントがあるじゃないですか。あれは関係があるから配られているのに、でも、読まないんですよ。本当にみんな読まないんです。読まない人にどう知らせるか。耳元へ行って言ってやるぐらいのつもりで、どうにかして振り向かせてやるぐらいのものを考えるか、あきらめるかなと思っています。

あと、公共施設等総合管理計画で、これを読んでいて、そういえばこれは解体のお金が入っていたかなと思って。つくる計画はあるけれども、壊す計画があったかな。それも見込んでおいたほうがいいのではないかなというのと、あとは、建て替えのときに、市が持っている土地で使っていない土地があるんだと、今、市の施設が借地で建てているものが結構あるんです。建て替えのときに借地をやめて、自分の土地につくるとか、そうすると、地面代が浮くかなと。

I C Tとかは言うまでもないので。そんなところです。

○I 委員

ありがとうございます。H委員。

○H委員

3点あります。まず、住民投票条例ですけれども、これは、去年の12月に本会議で否決されたという状態だったんですけれども、今年に入ってから新聞に折り込みをする議員で、そのうちの革新系の議員と保守系の議員にそれぞれ、私、メールで質問したんですね。あなたはどう考えているのかと。革新の人は、これはぜひ進めるべきだと。保守の人は、全市民アンケートなどをして、もし多いようだったら検討しようというような、できれば避けて通りたいというのがありありだったんです。前回の12月の理事者からの提案は、確かに私も拙速だったと思うんです。今、何が起きているかという、テレビとか新聞を見てわかってきたぐらいなので、こんなのが出ていたのかと。私も聞いていなかった内容だったんですね。

それで、結局、本会議で反対の議員の意見というのは、あの条例案そのものがどうこうという議論をするのではなくて、要は、周知されていないんじゃないのと。何でこんなのを急に言ってくるのと。それに対して市は、いや、ちゃんとこういう広報はしましたよと言っていたんですけれども、今年の第1回、第2回の定例会ではまだ市長からは提案していないみたいですけれども、ぜひそういう虚しい議論ではなくて、今度もし出すのであれば、広報を徹底して、市の理事者側も議員さんも、内容について実のある議論をしてもらいたいと思います。

2番は枝葉の問題ですけれども、112ページの「行政サービスにおける受益と負担の適正化」の最後の2行。「一部の公共施設では、市民以外の利用の増加により市民がサービスを受けにくい状況が発生しているため、サービス提供のあり方を検討していく。」これで私が一番パツと思ひ浮かぶのが市立図書館の予約制度なんです。たしか、令和3年の1

月から、発行日から 24 カ月以内の新刊本に関する予約は、武蔵野市在勤・在住・在宅の人に変わったんですね。

武蔵野プレイスの1階に利用者の声を掲示する場所がありまして、あの掲示板が好きなので、私は毎日見ていたんですけども、私の印象では、何という施策にするんだ、何で変更するんだというブーイング、反対の声は、私の体感としては9割ぐらい。それは、もちろん三鷹市とか、練馬区の人だけではなくて、市民からもそれがあったんですね。みんなお互いさまでやっているのに。あの制度というのは、多分、相互乗り入れでやっているはずなんです。お互い、便宜を図りましょう。だけど、武蔵野市民の方からも、ちょっとそれはひどいのではないかとというのが圧倒的だったんですね。私は、どこかでやむを得ずこういうふうなルールを決めるということは必要だと思うんです。いろいろな理由があって、あの場所があまりにも便利過ぎる。吉祥寺が便利だというのがあって、中央はあまり便利じゃないですけども、そういうことは、仮に批判を浴びることがあったとしても、今後あれば進めておいたほうがいいのかと思ったのが1つです。

最後は、まさかこういうことはないだろうと思っているんですけども、情報セキュリティの問題です。ここ数日、関西の某市で大事件が起きて、あれは本当にお話にならないというか、何の弁護の余地もない話ですけども、もちろん市の職員の方はきちんとやっていると思うんですけども、その先に委託先があった場合、どこまできちんとやってもらえるのかというのがあって、不安があってはいけないと思うんですね。通常、ああいうものは会社対会社の契約なので、秘密保持契約とか、いろいろな細かい話をたくさん書いたものについて判子を押して、これでやりましょう。実態はわからないですけども、一次委託があって、もしかして二次委託があったり。二次委託はだめかもしれない。わからないですけども、そこまできちんと管理をしていただきたい。今やっていないでしょうということを言うんじゃないですけども、していただきたいと思います。

USBというのは、少なくとも私がやっていた会社では禁止だったんです。パスワードもへったくれもなかったです。なので、ぎょっとした次第なんですけれども。その辺をより一層ちゃんとやっていただければと思います。

○I 委員

あれはどこでしたっけ。テレビで最近話題になった、USBで漏れたの。あれは関西でしたっけ。

○H 委員

尼崎。酔っぱらってなくしたんだけど、見つかったとかと。

○I委員

鞆ごと酔っぱらって。

○J委員

いつも持ち歩いてたんじゃないのと思っちゃいますよね。

○K委員

あれは論外だと思うんですけども。

○I委員

ちょっと質問したいんですが、1番目の住民投票条例は、12月の本会議で否決されたんですね。

○H委員

本会議で否決されました。

○I委員

その本会議の出し方の上程する方の過程がおかしいのではないかという話ですか。

○H委員

議論の内容がおかしいというのはもちろんあるんですけども、例えば、外国人の方を対象にする、しないとか、あるいは何カ月だったらいとか、6カ月でないとかだめだとかという、本質的な議論に至る前の、要は聞いていないよと。市長は2回目の選挙の立候補のときに何も言っていなかったんじゃないの。そこなんですよ。今度もしそういうのを出すのであれば、前もってちゃんと知らしめて、技術的な議論をしてもらいたい。

○J委員

否決する理由が、外国人云々の前の段階のこと。

○H委員

入り口のところだったんですね。

○J委員

それがおかしいと言っているのであって、外国の方の投票権云々ということではないんですね。

○I委員

住民投票条例の骨子というのは、外国人がメインだったんですか。

○J委員

そうです。3カ月以上でしたっけ。

○H委員

だから、外国人のことだけではなくて、どういうものをそのテーマにしてやるとか、あるいは、結果をどういうふうに市政に判断するとか、そういう細かい部分はいろいろあったんですけども、印象では、外国人の方を対象にする、しないといって、この辺を走り回っていたのは、やかましい街宣車は結局それなんですよ。

○J委員

私は、いつぐらいからそれをやり出していたのかなというのがまず、それを知らなかったということ。

○G委員

私は逆に、2回パブコメをやって、両方ともパブコメを書いているんです。だから、当然のことだと思っていました。今さら何を言っているんだ。

○J委員

なぜ知らないんだということね。

○G委員

そうです。

○J委員

知らないほうがおかしいでしょうということ。

○G委員

ほかのことで反対と言えないから、そこで反対しているんじゃないかなと。ほかのところで反対したら、印象が悪いじゃないですか。

○J委員

そうね。

○G委員

外国人嫌だと言ったら印象が悪いから、聞いていないじゃないかと言っているんじゃないかなとは思っていたんですけども。

○J委員

いかにもそれだと差別しているようなね。

○G委員

でも、次は聞いていないはないから、ちゃんと話すのではないかなと思いますけれども。

○I 委員

じゃ、G委員はパブコメでいろいろ意見を言われたということですが、条例の骨子というのは、どの辺が骨子だったんですか。

○G委員

どの辺が骨子とは。

○I 委員

住民投票というのは。

○G委員

住民投票のポイントは幾つかあったんですけども、私的には、外国人と、それよりも、成立要件。まず、住民投票をするというところまでが大変なんです。署名を集めて、住民投票をやってくださいとやるんだけれども、それが市民の何分の1の署名があれば、そこまで持って行けるかというのがすごく厳しい。投票した後にどれだけ投票率があつて、過半数を超えれば、住民の意見が通る。次のほうが大変で、こんなの無理でしょうというのが私の意見だったんだけれども、外国人のほうが。でも、外国人は当たり前だと思うんですよね。それよりも、この条例をつくって、住民投票を成立させることは可能なの？と思ったのは、市長の得票よりも署名を集めないといけない。そんなのあり得ないでしょう。もっと敷居を下げて、住民投票ができるようにしないとと思っていたんです。そうしたら全然違うところに向いていたので。

○I 委員

全然知らなかった。すいません。勉強不足で。

○J 委員

私も。

○I 委員

話が戻ってごめんなさい。H委員の意見は、住民投票条例に対しては、もう少し準備をしっかりとやってということですね。

○H委員

そうですね。ただ、どこまでやれば十分に知らしめたと言えるかというのも難しいんですけども、例えば、全市民アンケートをやって、回収率が50%なんてあり得ないと思うんです。そこが例えば10%だったと。そうするとまた反対派は、こんなに少ない市民の声では市民の声を代表していないじゃないかと言いかねないと。いずれにしても、ちゃ

んとやりましたよということをちゃんと市としてやっていただいて、もし新しい議案を出すのであれば、内容そのものについて議会でやってほしい。もんでほしいということです。

○I 委員

わかりました。

そのほかに皆さんのほうから、関連することでもいいし、新しいことでもいいし、何かありましたら。

○J 委員

駐輪場の問題というのはどういうふうになっているんですか。

○G 委員

吉祥寺のことなのであまりやっていないです。あらゆることに首は突っ込んでいるけれども、吉祥寺ローカルなこととか、そういうことには。

○H 委員

本当にわかっているようでわからないんですよ。至るところに紙が張ってあって、いかに市はまずいことをやっているか。ただ、断片的にしかわからない。

○J 委員

根本が難しいから、あれを見ても、ただ、へえというだけのことに。

○H 委員

その何年前には、武蔵境駅前のQUOLAですよ。非常に不当な取引をしたとか、あったんですね。不思議な形の建物ですけども。あれは議員の人がやっているんだと思うんですけども、よくわかっていないのは事実なんです。

○L 委員

価格面が問題だったのか。

○H 委員

自転車のあれはそうでしたよね。じゃ、どうだったの？と言われると、私は答えられないんです。

○G 委員

議会を聞いていると詳しくなる。

これはあまり政治の話は関係ないんですけども、行政の話。政治の話はここではあまり。

○I 委員

そうですね。

私の意見としては、市の情報を知らしめる方法として、広報は広報ですごく機能していると思うんですね。私も見るようになったし。

もう1つは、皆さん、最近、スマホを持っていますので、常時メルマガでどんどん情報を個人宛てに送る。そのかわり、メルマガの登録の仕方、見方に関しては、月に何回も講習会を開いて、どんどん市民に来てもらって、自分の登録の仕方とか、その辺のこと一連を無料でどんどん教えてあげて、スマホにどんどん情報を入れるというやり方はどうかなと思うんですけれども。

○G 委員

読まない。

○I 委員

読まないですかね。

○G 委員

読まないんです。自分のことが書いてあるんだけど、読まないんですよ。

○L 委員

お得なことがないと。

○I 委員

スマホで見ないですかね。入ってきたら見そうな感じもするんですけどね。

○H 委員

おもしろいか、何か当たるとか。

○I 委員

あるいは反対に、市で景品が当たるということはなかなか難しいかと思うけれども。

○J 委員

市で当たると言ったら詐欺だと思っちゃう。

○H 委員

ここしばらく、市報を私がちゃんと見るようになったのは、1つは、3月末までやっていた武蔵野地域応援券なんです。あれの明細が結構出てきて、どの店で使えるとか。あれはお得情報だったので、ちゃんと使おうと思って見て。そのちょっと前は、コロナのワクチンがどういう日程でやるのか。それはやらないとまずいと思ったので、この2つなんで

すよ。多分、それ以前はそんなに課題を感じなかったの。

○I委員

でも、今言ったお得情報だったら、みんな見てくれますね。メルマガでパッときたら。

○L委員

LINEのグループとか、バーコードで、教えるほうも簡単で。よかったなというものが出せれば。

○G委員

最近クーポンを送ってくるのも見ないで消してしまう。

○H委員

何かで登録すると結構くるんですよ。

○I委員

あるいは武蔵野市のある企業と提携して、企業の広告をちょっと張りつけて、そこで何か当たるとか、何かメリットをつけて、メルマガを見てもらえるような感じを製作すると、皆さん、せっかくスマホを持っているから、市報よりも。新聞をあけて見るよりも、スマホに有効な情報が入ってきたら、多少は見てくれるんじゃないかなという感じはするんですけれどもね。

広告も時々入ってくるじゃないですか。あれも武蔵野市と提携した在住の、例えばパン屋さんの広告を載せてあげて、そのパン屋さんの何か特典があるとか、あるいは、先着何名様にプレゼントでもいいし、そんな感じのものをあげながら、うまく連動してできないかなという感じがするんですけれどもね。

○L委員

武蔵野市でも収入を上げる努力は必要なんですよ。

逆な発想で、武蔵野市そういうものを使って収入を得ましたという発想も必要だと思います。

○K委員

メールでは、どのくらいの人に届くんですか。

○G委員

市報を全戸配布しているんです。

○K委員

全戸配布というのはどうやって。

○J 委員

シルバーの人が地区ごとに。

○H 委員

全戸に入れていても、こんなものでしょう。

○K 委員

スマホにくるのはメールアドレスを市はどれくらい把握しているんですか。

○I 委員

多分、自分で登録しない限り、こないですね。だから、反対に、メルマガに登録すると、こんないいことがあるんですよということをPRして、登録してもらおう。

○K 委員

お得情報なのか、そこで何か自分が見て言える。例えば、ちょっとしたアンケートじゃないけれども、これについて賛成ですか、反対ですかとやって、自分の意見がちゃんと。

○L 委員

それはいいかも。双方向の。

○I 委員

メルマガでもアンケートをとれますよね。

○J 委員

簡単なアンケートはとれます。

○H 委員

市民参加にもなるし。

○K 委員

広報と広聴が一遍にできる。

○I 委員

そういった意味では、スマホをうまく工夫して使うことが非常にこれから大事なかなという感じがしますね。

○L 委員

いいかもしれない。

○K 委員

そういう1つのメディアになれば、いろいろなことができますね。

○I 委員

そのかわり、さっきも出ているように、何か特典が必要なんですね。その特典をどうやってうまくつくっていくか。

○G委員

本当は、市民参加自体がすごい特典なんですけど、よそへ行ったら市民参加できないですからね。市長が決めたことをやっているだけ。武蔵野市は市民の意見が。

○K委員

地域通貨をもらえとかね。

○I委員

あるいは、アンケートに10回答えると、市の食堂で定食を食べられるとか。

○K委員

やれる範囲のことで。

○I委員

さっき、おもしろさが足りないという話だったじゃないですか。あれも含めて、ゲームじゃないけれども、ゲームまでいったらちょっと軽いけれども、何かおもしろさを加味した形で意見を吸い上げる。

○J委員

そうすれば、若い人も、学生さんだって、そういうところでは参加できますものね。学生が見れば、お母さん、こういうのがあるよと言う可能性も出てくるしね。

○I委員

「お父さんお帰りのパーティ」があるじゃないですか。

○J委員

社協でやっていますね。

○I委員

あれも、最近、お父さんが退職で家にずっといると。それに対して、奥さんとか子どもから、こういうのがあるから行かない？みたいなことを言えとかね。そういう情報も本人以外の人にとれるような形で、どんどん入ってくれば、結構言えるんじゃないかと思うんです。

○J委員

ポスターだけだと、どうしても人間でそこで終わってしまうけれども、そういうのでくれば、家族でもしかしたら伝えることもする。お父さんが家にいないでほしい。

○H委員

怪しいメールだと思われて削除されなければいいですけどもね。

○J委員

それだけ気をつける。

○I委員

その場合には、おもしろいけれども、ちゃんと武蔵野市のマークが入って、これだったら見ていいかなとわかるじゃないですか。そんなメルマガだったらおもしろいかなと。

○K委員

日本語の不自由な方への何かイベントだとかサービスとかも、記事に全部仮名が振ってあるのがあって、今までは仮名を振っていないのは読めていない人がいるんだと思ったことがあって。ですから、今日のも思うんですけども、外国人向けの記事は英語で書いてあったときもあったような気がするんですけども、一部分だけ。読めていない人もいるんだなという。

○G委員

市報はたしか全部自動翻訳が入っているんです。

○J委員

韓国とか。

○G委員

ふるさと納税は、結局は納税した一部が還元されちゃうんですよね。ということは、全部が全部やったら、税金の何割かがなくなるということですよ。

○J委員

武蔵野市民のここに入ってくるお金も当然そうですね。

○G委員

市単位で見ると、うちはたくさんあった。あそこはなかったということだけれども、全体で見たら減ったんですね。やめたらいいのにと前から思っているんですけども。

○K委員

地域の何かを売るための、地元の業者に行くわけですよ。経済対策っぽいんですよね。地元の特産品をプレゼントするということは、その地域の業者にお金が行くわけですよ。

○L委員

それだけです。

○G委員

国全体の税収として減っているわけですね。

○L委員

減っています。

○G委員

やめたらいいと思っていたんだけども。

○I委員

支援なんですかね。

○G委員

それは交付金で調整したらいいのではないかと思います。

○K委員

結構減っている。

それは数字が出ているんですか。

○事務局

出ています。本市は、10億ぐらい。

○I委員

何が？

○K委員

ふるさと納税。

○J委員

減った金額。本来だったら。

○G委員

それでも基金をどんどん積んでいったら、武蔵野市民の担税力がすご過ぎる。

落ちついちゃいましたね。

○I委員

さっきそういえば、H委員が言っていた市民サービスの件で、市民として利用する設備とかサービスに対して、市民在住に対する格差をつけるというのがありましたね。市民が税金を払っている以上、住民税を払っている以上、それは当然だという気持ちもあるけれども、いろいろな地域と連携してやっているときには、それはお互いさまで助け合いましょうという気持ちもあるだろうし、それはやっぱりあれがありますよね。

○H委員

おそらく、本来だったら、相互乗り入れの観点からいけば、やらないのがベターだとは思いますが、お互いさまだよということであれば。ただ、それをやるということの回答が、武蔵野市立図書館を利用する人たちの中で、提携している他市、他区の方のほうが割合としては多いということなんです。結局何が困るかという、予約制度があるんですけども、私も、50とか60とか100とか予約が入っていればあきらめますけれども、今、他市はだめですというふうにしたんですけども、それでも人気本は何十という予約が入っている。

○J委員

1年ぐらい待たなければ借りれないわねという。

○H委員

1年待つのがあったら、本当に読みたかったらお金を払って買うとか、違う図書館に行くかなんです。だけど、それはおそらく、例えば、100人待ちだったのが50人待ちとかにはなっていると思うんです。

○G委員

相互で負けていたというか、サービスするほうが多かったからこうなったんじゃないですか。こっちが利用するよりも利用されるほうが多かったからこうなった。それでもいいと思う。これは、初め聞いたとき、ああ、せこいなと思った。

○J委員

私、これを前提にしたのではなくて、最初、コミセンを前提にしたのかと思ったんですね。コミュニティセンターが高齢者施設とはとかと、今はやっていないですけども、編み物教室だとか、お絵描き教室とかやっていたんですけども、それがすごく昔はコミセンとかでもやっていて、近隣の人も申し込んだり、三鷹市だとか練馬区だとか杉並区だとかの人たちが申し込んだり、市報を見たりすると、申し込んでみるというのがあって、それで、コミセンに何か講習を受けたかったけれども、人数がいっぱいで言われたということが随分前にあったというのを聞いたんです。それから徐々に、制限をしたほうがいいのではないかと、みたいになっただけで。それは違うんですか。

○G委員

図書館についてという言い方は言っていないので、今おっしゃられたようなことも多分、この文脈からはそう思えますね。コミセンは、市が管理しているのではないんです。市民

が管理しているんです。そこに住んでいる人たちが決めるので、地元優先というところが結構あります。特に駅近だと。何丁目に住んでいる人は2カ月前から予約をとれるけれども、一般の人は1カ月前から。

○J委員

人気のあるものだと、そこに住んでいても申し込みが受けられなかったとか、もういっぱいですというのが。

○G委員

あれは市民が決めるので、こことは関係ないです。これは市がやることなので。

○H委員

プレイスで言えば、3階のスペースがたくさんあるんですけども、あそこは特に武蔵野市民からの申し込みに限るとは言っていないくて、少し割高なんですけれども、他市・他区の人でも部屋は予約できるんです。それがどこまでそれをやっているかということによって、市民が利用できなくなっているかはわかりません。

○I委員

でも、例えば、市の収入としては当然外からお金が入ってくるということはありますよね。ただ、何のための施設なのかと云ったら、市民が使えるようにするための施設ですから、その辺ですよ。

○H委員

それが目に余るというのが、本の予約のことなのではないか。

○G委員

何で市民が借りられないんだというクレームが多いんじゃないですか。

○J委員

何でこんなに待たなきゃいけないんだ。税金を納めているのに、みたいな。

○I委員

それは、結構ほかの方が利用するのがわかるからですね。

○J委員

そう思います。私も。

○I委員

それから、市有地の件で、どのぐらい市有地が今あるか、私も把握していないんですが、ただ、市有地で使われていないところがあるとしたら、さっき言った借地で借りている建

物に関しては、当然、借地が更新になるとときには市有地を使うべきだと思うし、私は不動産業者なんですけど、土地というのは利用してなんぼなんです。いかに有効利用するか。それを有効利用しないで、固定資産税は多分市が持っているから払っていないと思うんだけど、要は何もしないで置いておくこと自体が一番問題であって。何のために買ったのかということなんです。当然市の財政で買ったわけですから。その辺はもっと有効利用しないといけないと思います。今、市有地はいっぱいあるんですか。

○G委員

何箇所もあります。

○I委員

いいです。後で見えます。

○L委員

スクラップアンドビルド。あるものを活かしていくのが前提か。

○J委員

でも、武蔵野公会堂だって、建て替えとかいろいろ年数的に言って、あそこは同じように公会堂をつくるとか、そういうふうに決まっているんですか。

○事務局

案として出ているのは、会議棟はわかりますかね。ホールがあるほかに会議棟があるんです。道路に面しているほう。あっちだけでも建て替えをしようか。今、バリアフリーでない。エレベーターがないじゃないですか。それが問題になっていて、会議棟だけでも建て替えないかという話は案として出ています。

○H委員

ちなみに、他市・他区の人と料金で差をつけるのは、そのの体育館がありますよね。あれは、武蔵野市民はナントカカードをというのを発行してもらおうと半額ぐらいになりますけれども、それは何十年も前から。

○G委員

時間があるんだったら、市に要望なんですけれども、市議会の議事録が何年か前しかなくて、その先が読めないんです。検索して読むから、読めますよと書いてもらっても困るので、議事録を全部載せてほしいんです。さかのぼってずっと。それを要望したら、いついつの議会の議事録は読みたかったら、言ってくれば出しますと言われて、いついつに何が書いてあるかわからない。やってくれたらうれしいなと思って。少なくとも 50 年分

ぐらいいは読みたいなど。

○I 委員

話を聞いていると、G委員は市政に対しては関心があるみたいで。

○G 委員

そうですね。多分パブコメは市で一番書いていると思います。

○H 委員

私も昨日初めて見たんですけども、武蔵野市議会の多分何十年も前のはないと思うんですけども、最近の映像が出てくるんです。市のホームページの中に。私が昨日見たのは、令和4年第1回定例会、2月28日、本会議一般質問という、某議員のものを見たんですけども、延々とやっているんですよ。1時間とかやりとりを市長と。それと、全部じゃない、一部は文字化、テキスト化しているんです。

○G 委員

全部です。市議会は省略しません。

○H 委員

ただ、過去何十年というのはないと思います。あれを見ると、実にいろいろな質問が出ているんだなと思って。それを市長1人と、あと、図書館に関しては教育長が出てきました。市議会というのはこういうものなんだなと思って。

○G 委員

武蔵野市はすごいです。市長がちゃんと答えますから。よそへ行ったら、市長が回答を拒否して、担当の人がしゃべっている。

○H 委員

これも大事な問題なんですけれども、どこそこの駅前のトイレの男子トイレのどこが壊れているとか、女子トイレのナントカにずっと落書きが書いたままなんだけれども、管理はどうなっている。それに市長が答えているんですよ。誰とは言いませんけれども。そういうものなんだなと。

○I 委員

ちょっと話を聞いただけでも、非常に非効率な質問をしていますね。もっと本筋というか。

○G 委員

それを質問している議員に言ってください。

○I 委員

もっと本質論を論議してほしいですね。

○H 委員

ちなみに、さっきの住民投票条例の総括というのを見たんですけども、全然話が見当たらなかったです。

○I 委員

なるほど。ということは、我々市民の声を簡単に届けられる仕組みが大事ですよ。さっきのメルマガじゃないですけども、どんどん双方向でいろいろな意見を言えたり、質問ができたり、アンケートをとったり、そんなのをどんどんやるべきですね。

○G 委員

もしかしたら、行政の人からしたら、当たり前過ぎて、市民に何を聞いていいかわからないかもしれない。

○J 委員

そんなことを今さら聞くのはという。でも、それじゃ、本当はね。

○G 委員

わかっている人が説明するのは実は難しいから。

○J 委員

目線をどこに持っていくかということの大切さですよ。何かを伝えるにしても、何にしても。

○G 委員

さっきの住民投票のときにパブコメを2回やって、1回目から書いていると言ったじゃないですか。僕は首を突っ込み過ぎているから、普通の人聞いていないというのがわからないんですよ。何で聞いていないの。十分話したじゃん。こんな大事なことを。

市報が郵便受けに入ったら、すぐ捨てるそうですね。

○J 委員

というか、子育てとか、そっちの方面に今までずっと特化していたから、その部分が自分がなくなってしまうと、あ、こうなんだな、こういうところがあるんだなというだけであって、あまり注意深く見なくなる。子育てのことが本当にたくさん出ていますよね。お子さん、福祉関係のこと。それ以外のことはあまり載っていないので、気をつけて見ていないのかもしれない。

○G委員

子育ての人も見ていないです。

○H委員

ちゃんと見れば見やすいと思いますよ。レイアウトも注意してつくっているみたいだし。いかにも広報紙という感じではないです。

<発表>

○I委員

それでは、最後、Bグループの発表をさせていただきます。

1つは、いろいろ出たんですが、項目を挙げますと、例えば、今、市有地の問題がありますが、市有地は有効活用されていない状況がありますが、土地は有効活用していくべきだと思いますし、特に今、公共施設、市の施設に関しても非常に借地が多いということがあるようで、今回、借地を、例えば、契約が満期になって返還するとかいろいろあると思いますが、今、借地で建てている建物を、実際には今空いている、今使っていない市有地に今回転換できるのではないかということも1つあります。

あとは、公共施設の建て替え等が課題になっておりますが、今後、直下型の地震も含めて、大きな災害がくることも予想されますので、建て替えのときには、災害に耐えられるプラスの設備、例えば、シェルターをつくるとか、災害に耐えられるような、プラスのしっかりした計画を持った施設に建て替えることが必要ではないかということを検討したらどうかということがあります。

あとは、昨年12月の本会議で否決されたという住民投票条例に関しても、そういったことを聞いたんですが、住民投票制度そのものがどんな制度かというのがPR不足で、我々市民にとってはなかなかわかりにくい。

また、本会議でもそのやりとりを見た委員の方がいたんですが、本会議の審議の中でも、審議する方たちが理解していないような感じだったので、もう少しこういったものに関しては十分に事前に根回しをするなり、知らしめるなりして審議を進めていったほうが良いのではないかということがありました。

それと、市民サービスの件でも1つありまして、市立図書館において、新刊の予約に関しては、24カ月以内の予約らしいんですが、それが市民と市民でない方、特に人気のある市立図書館は、市民の方よりも、三鷹も含めてほかから来る方の利用率が非常に高く、

したがって、予約するのも非常に、特に人気の新刊に関しては全然予約がとれない。

それに対して、今回、市民の方とそれ以外の方に差をつけたようなことなんですが、そういったことは、武蔵野市民体育館も含めて、市民は若干特典がある。こういったことに関して、税金を払っている市民に対してのサービスに対する格差づけもいろいろな意味で検討が必要だということがありました。

あとは、これは非常に大事なことなんですが、市民に対する広報・広聴ですね。市民の意見を聞く。こういったことを比較的武蔵野市はできているほうではないか。市報も結構読んでいる方も多くなっていますし。比較的できているんですが、ただ、そうはいつでも、まだまだ、さっき言ったように、市民が知らない。PR不足が多いということもありますので、それを解決するにはどうしたらいいかということの1つの案として挙げたのが、メールマガジンで市民の方に対して。今、市民の方はスマホを持っている方が多いと思いますので、メールマガジンに関しては登録しないといけませんから、登録の仕方等を、例えば、無料相談会とか、無料セミナーでしっかり市民の方に教えて。しかも、最近、スマホにはいろいろな情報が入ってきますので、武蔵野市のマークをつけて、これは武蔵野市の情報だとわかるような形で、本当に大事な情報を随時スマホに流していくと。

ただ流すだけだとおもしろくないので、そこに、例えばプラスの特典、おもしろさ。例えば、武蔵野市の在住の企業と提携して、企業が提携する広告をちょっと入れられないか。そのかわり、広告を見た方が何か買うとか、そういったことをしながら、情報を随時市民に送る体制をつくっていくことも大事ではないか。

それと同時に、ただ送るだけではなくて、例えば、市民の声を聞くアンケート。それから、パブコメではありませんけれども、市民の方が簡単に意見を言える掲示板とか、双方向の機能を持ちながら、随時メールマガジンで広報していくのも非常に大事ではないかということをお考えしました。以上であります。

【Cグループ】

○N委員

一番やりたくないなと思っていた議題になってしまって。市の行政、いろいろ文句を言いたいことがたくさんある人もきつといて、大変な作業かなと思っていたんですが。それともう1つ、ちょっと難聴ぎみなので、すいませんと聞くことがあるかもしれませんが、ご容赦ください。

では、皆さん、気がついたことというか。まさに社会変化の中で、このままの市の財政のあり方でいいのか。個別のことがいっぱい書いてあるんですが、今のプレゼンを聞きながら、これの内容を考慮しながらご意見をお伺いしたいと思いますけれども、まず、さっと一通り聞きましょうか。一番大事だと思うことを2つぐらい、もし気がついたことがあれば、R委員のほうから。

○R委員

132 ページ、133 ページ、さっき市の方もおっしゃっていましたが、下のグラフを見ると、今が 2022 年ですよね。このグラフは何を意味しているかということ、更新時期を迎える公共施設の床面積なんですね。今から先がうんと増えていく。ピンクのグラフですね。今はまだ左から 5 番目です。2022 年。ここから先がうんと増えていくわけですね。当然ですけれども。これを財政で賄わなければいけないというのが、ここを見ると、借金で賄うと書いてあるんですけれども、今は健全な財政が相当厳しくなるということがもう見えているんですね。それを借金で賄うしかないんだ。もちろん、これをどうやって更新していくのか。なるべく延命して云々かんぬんと書いてありますけれども、財政計画としては非常に厳しいのが見えているなというのが1つです。だから、どうするんだという話ですけれども、対策はここでなかなか議論できないと思いますけれども。

だから、遊休土地で使わないやつは、市有地で使わない土地を売っていくんだと書いてあるんですね。それはそれでいいと思うんですけれども、そこで、前回、どなたかおっしゃっていましたが、ヨドバシカメラの裏の土地の売り方がよくないとおっしゃってましたでしょう。市としては損を出して売って、買った業者は利益を出して売り抜けたみたいなことをおっしゃっていた。だから、今後、こういう財政状況が見えている中で、市の運営として、使わない土地を売っていくということはいいと思うんですけども、売り方のプロセスなり、透明性なり、きちんと損を出さないように売っていくなり、行政手続の透明性ということはぜひ担保してほしいなと思います。その点は売っていくんだとしか書いていないんですけども、売り方についての透明性。

○N委員

入札とかそういう話ですか。

○R委員

入札もそうだし。

○N委員

売り方というのは。

○R委員

何で損して売ったというところの説明責任ですよ。多分合理的な説明を持っていらっしやるんだろうと思うけれども、納得しない人がたくさんいると思うんですね。その辺をちゃんとやりながら、財政健全化を維持していくというのはなかなか大変な問題だろうなと思いますということです。

もう1つは、これも書かれているんですけども、113 ページに、財政援助出資団体というのを書かれていて、表の上辺りに「再整備方針の方向性」と書いているんですけども、この団体がどういう問題があつて。要は、国でもそうですけれども、外郭団体に大きな問題があることが多いんですよ。市本体じゃなくて、外郭団体に赤字だったり、そこに大きな赤字の補填のお金が流れていたりするということが多いので、この辺を明らかにしてほしいなど。一体どういう財政状況になっているのか。どのぐらい支援をしているのか。だから、公募制度をやっていかなければいけないんだということだろうと思うんですけども、ここの中身がこの資料だけでは明らかではないので、きちんと公開して、問題がはっきりするようにされたらどうかなと感じました。以上です。

○N委員

ありがとうございます。具体的に指定管理者のこれも入札だと思うんですね。それも含めて、もう少し明確にしたほうがいいですかね。

○R委員

今は入札になっていないですね。これは多分決まっちゃっているんですね。

○N委員

そうなんですか。

○R委員

じゃないかと思うんです、これは。今は決まっちゃっているんです。

○Q委員

これはですよ。

○N委員

これは決まっている。しかし、ほかのやつはもう少し透明性を持たせてというのがどこかに書いてありますか。

○R委員

今後と書いてあります。

○N委員

公募導入ね。ああ、なるほど。

○R委員

今は決まっちゃっているんです。

○N委員

R委員のご意見は、今決まっている指定管理者の支援の実態も定かではないということですね。

○R委員

どこかで明らかになっているのかもしれませんが、この資料だけで読み取れないので、どういう問題があって、今後どうしていくのかという。

○N委員

質問は後からにさせていただいて、先に皆さんから1、2点、一番これに関心があるなというのを伺いしてから、ポイントで議論をしていったらいいかなと考えたので、先にとまず意見をお聞かせください。

○M委員

私は、広聴・広報についてです。109 ページです。「効果的な広報・広聴の仕組みづくりとシティプロモーション」の(2)の「広聴の充実と広聴・広報の連携の推進」というところにかかってくるかなと思う。あと、(1)にもかかってくるか。要は、先ほどから、こういうことを市がやっているのに全然知らなかったということがあって、そういうのはいろいろあるじゃないですか。私からしてみたら、住民投票条例についても、何でもみんな知らなかったの？という感じなんですね。それは、市の肩を持つみたいであれなんですけれども、私が子どものことで問題意識を持って、市の行政のことをしっかり見るようになってから、ものすごく改善されているんですよ。

○N委員

広報の仕方が。

○M委員

はい。丁寧にいろいろ情報を載せているし、あとは、ホームページにいくと、議事録とか会議で配った資料も、教育委員会以外はすごく充実しているんです。

○N委員

教育委員会以外。

○M委員

あれは市の部署とはまた違う流れなので、切り離してしょうがないんですけれども。取りに行けば、すごくいっぱいあるんですけれども、ただ、取りに行こうというふうになるということが少ないじゃないですか。普通の生活を送っていて、特に過不足ないと。なので、そういう人に対してどう情報発信していくかというのは、問題とは思いつつも、これ以上どう知らせればいいんだという気持ちもすごくわかるんです。あとはテレパシーしかないのではないかというぐらい。

○N委員

コンテンツをどう発信すればよいか方法がわからないんですか。

○M委員

要は、市報は全戸配布されていて、ホームページにも市報に載っている情報は全て網羅されて載っていて、かつ、何か会議があれば、議事録とかもアップされていて、それは市議会も一緒ですけれども。あとは、聞いている人は少ないかもしれないですけれども、FMむさしのでも毎日いろいろ情報を流していて、市は市でプロモーション番組をケーブルテレビでやっていたりして。

○N委員

いるにもかかわらず、何でこんなに知らなかったというのが多いのだろうというので、それは答えはないんですか。

○M委員

あとはテレパシーで飛ばすしかないという。

○Q委員

これ以上やる必要があるのかとか、やりようがない。

○N委員

やりようがないのではないかというのが結論ですかね。

○M委員

やりようがない。

○P委員

興味を持っていなければ、どんなに媒体が多くても見ない。

○M委員

あとはLINEとかも最近始めているし、SNSとかでも情報発信や、ツイッターとかフェイスブックとかでもやられているんですよ。だから、もうそろそろ情報発信が足りないというのは通用しないのではないかといいくらい頑張っているんで、あとは、市民のほうも、一瞬でもそう思うことがあったら、自分から取りにいく努力もしなければだめだし、あとは、忙しくても、トイレに入ったときに市報を置いておいて読もうよとか。

○R委員

住民投票制度に関しては、問題になったのは、外国籍の居住者に投票権を与えるか与えないか、そこが論点ですよ。

○M委員

でも、それも前から出ていたんですよ。

○R委員

論点として明らかにしていた。

○M委員

はい。なんですけれども、取りにいかない人には伝わらないという限界はあるのと、あとは。

○N委員

何が効果的かというのは。

○M委員

だから、あとは、すいません、この話には続きがあつて、積極的に取りにいても、情報を掘り出すまでがすごく大変なんですよ。情報は全部載っているんですけども、探するのがすごく大変で、情報同士の連携がとれていない。例えば、この情報を取りにきた人は、きっとこの情報についても知りたいはずだから、リンクをつけておこうとなっていないので、すごく慣れるまでが大変で、普通の人は慣れるまで使わないという感じなんですよ。

○R委員

私も市のアプリを入れていますけれども、毎日きますよね。ナントカ委員会あります、ナントカ委員会があります、こういう人を募集しています、あしたはごみで何を収集します。1日何通もきます。

○P委員

でも、リンクぐらいは張ってほしいような気がするんです。例えば、今、絶対に見てもらわないといけないトップ3みたいなので、今一番熱いのはこれ、みたいなのがあって、

ここを必ずクリックするとか。本来はそういうのはしてはいけないのかもしれないけれども。

○N委員

わかりました。ほかにポイントがありますか。

○M委員

とりあえず今、課題出しですよ。あとは、公共施設についてですけども、110 ページです。「公共施設等の再構築と市有地の有効活用」の(1)「公共施設等総合管理計画の推進」というのがあるんですけども、これができたばかりに、公共施設を増やさないと、むしろ減らしていこうというふうに舵を切り過ぎてしまうのは危険だと思っていて、財政は当然見ていかなければいけないけれども、減らすことありきで考えると、椅子取り合戦になって、建設的な議論はできないのではないかと思っています。

○N委員

これができたがゆえに、自分のところはとられてはいけないみたいな、減らされないように頑張ろうみたいな、負のエネルギーが働いてしまうんですかね。

○M委員

そうですね。あとは、増やさなければいけないとなったときに、柔軟にそれに対応できなくなってしまうなど私は思っています。

○N委員

これは永遠に減らす計画なんですか。それとも、今、減らしておいて、次の計画にはまた増えてくるんですか。

○M委員

この計画のときには、一番最初の公共施設等総合管理計画について語られていて、その中では、公共施設、これから更新にお金がかかるから、増やさないでいこう。もし減らせるものがあるのだったら考えて減らしていこうというような中身でした。

○N委員

ということは、長期的にこれはずっと続くと考えたほうが。一旦減らされたところが復活する可能性はないと考えたほうがいいのか。

○M委員

今年出たバージョンのほうは、少し書き方は弱まっていると感じています。

○N委員

なるほど。わかりました。それは後から議論をしたいと思います。

〇〇委員

行財政について、私も実は、一番最初にR委員が言われていたのかもしれない。多分、E委員という方が駐輪場のことを言われて、私もその前から見ていたんですけども、金額とかはあれなんですけれども、要は、高く買って、安く売っているわけです。財政が苦しいのに、商売だったら高く買って安く売っているわけですよ。何でそんなことをするんだらうという話なんです。しかも、ニーズがあって使っているはずなのにというのがあって。

私の場合は、三鷹駅の駐輪場を使っているんですけども、昔から見ると、だんだん値段も上がってきて、なおかつ、定期券で借りていたやつが、今、一時駐輪場で1日100円という形で上がってきて、どんどん減らされて、もしかしたら半分にしてしまって、半分以上をまた売ろうとしているのかもしれないんですけども、駅前の土地なので高いから。ですから、これはちゃんと。今、コロナでテレワークが増えて、駐輪場がガラガラなので、足りないから一時駐輪場にするというのは、ちょっとおかしいんです。実際、見ると、減っているんです。テレワークが進んでいるので、コロナが終わって、みんなこもるから、終わってしまっても埋まることはないんです。埋まることはないのに、何で狭める。だから、これは見直してほしい。

これは違う問題と絡むんですけども、そこから始まって、いろいろ駐輪場を調べると、吉祥寺の駅前の駐輪場は、言われていたのは、私もそれを聞いて初めて知ったんですけども、みんなの意見を聞くのに集めておいて、次の日に売ってしまうのでは意味がないです。24時間のリミットで決めたということであれば、しないほうが良いという状態になるから。

〇N委員

公聴会のあり方にもかかわってくる。

〇〇委員

そうです。市のものなんだから、自分のものではないんだから。

〇Q委員

ただ聞けばいいという話ではない。

〇〇委員

そうなんです。みんなの話を聞いてほしいなど。武蔵野市方式が。

○N委員

出来合いレースでやったのではないかという話が。

○○委員

私もそこまではわからないですけども。

○Q委員

それを疑われてもおかしくない。

○○委員

疑っている方は、前々市長の方が、今、訴訟を起こしている。現市長に対してか、市に対してか、お金を戻すように訴訟を起こされているみたいなので、私も調べていたら、そんなことをしているんだと思って。ネットで見ると時々出てくるので、それにかかわるわけではないですけども、今回出るきっかけになったワークショップだったんですけども、勝手にしゃべらせてもらおうと、ワークショップで、いろいろ言ったら、こういう会議があつて、参加しませんかというメールを市の職員の方から送っていただいたので、ぜひ1回、ずっとここに住んでいて、この間、間違っって緊張して、39年住んでいるのに、29年と言ってしまったんですけども、随分長い間お世話になっているので、ちょっとぐらいは言わせてもらいたいと思って。

そこが、まず、とにかく全部話を聞かなくて、住民投票の件も、前から知っていたのかもしれないですけども、もう少し、じゃあ、やり直して、もう半年間みんなで議論しましょう。それでみんなが、例えば、外国人をこれから入れていって、住民投票権をあげましょう。ただ、規定が3カ月というのは、長期出張とかで韓国の方なんて平気で来ますから、そういうふうに市民投票権をあげても仕方がないような気がするんです。それは別の論議として、とにかく、もう少し話をして、そこまで性急に決める必要があるのかなと思って。だから、こういう会議、せっかく武蔵野方式というすばらしいのがあるのだから、みんなもうちょっと活用して、多分、市の方はどっちの意見も言えないはずですけども、それは市民である私とか皆さんが、賛成でも反対でもいいんですけども、よく話し合っって決めていきたいということを現体制のところに話していかないと、止まるかどうかは別ですけども。と思っている。

○N委員

1つ、市の方が言えない。

○○委員

言えないのではないかと思います。市職員の方。

○N委員

職員参加、議員参加、市民参加というのがうたい文句なんです。このうたい文句が現実どこまで反映されているかというのは、ちょっとわからないんですね。こういう形で市職員の方の参加というのは実際にあるのかなというのが、今、O委員が、職員の方が言えないと。

○○委員

ごめんなさい。私の言い方が悪くて。言えないわけではないかもしれないですけども、例えば、私がサラリーマンだったとして、社長がそう言って、面と向かったら、次からおかしくなるという状態に追いやられるのではないかという恐怖があるわけですよ。そうじゃないかもしれないですけども。

○N委員

僕もそう思うんですが、うたってあるから、どういう形で職員参加が。

○Q委員

聞いてみる。言えない。

○N委員

後から聞きましょう。

○○委員

ただ、なかなか言いづらいと思うんです。面と向かって。

○N委員

職員参加のあり方。

○○委員

1票ずつ3票あったとしたら、1票が公平じゃない。それは世の中どこでもそうなので、仕方ないと思うんですけども、ただ、1つ、さっきから言うように、駐輪場のことをきっかけにしてもそうなんですけれども、もうちょっとゆっくりみんなで話し合ひましようよ。

○N委員

そうですね。

○○委員

反対が多いようだったら、右翼の宣伝カーが来たり、テレビで取材をされて困る状態だ

ったら、話し合いをあと3カ月延ばせばいいじゃないですか。もう少し話しましょうと延期して、もう1回みんなでアンケートをとるなり、署名活動をさせてみるなりして反映すればいいのではないかなというのが正直なところです。

○N委員

ありがとうございます。

○P委員

皆さんがおっしゃったことは割愛して、人材の育成というのは、入ってくる方々は、新卒ですから、社会のことは、よほどのことじゃなければ、新卒、大学卒業とか、もちろん高校生の方もいらっしゃると思うんですけども、なかなかそういうことはわからないから、入ってきて、1つ1つ勉強して市のことをやっていかれるとは思うんですけども、今日も休みですけども、こういう対応をさせていただいているし、いっぱいいっぱいの中で、業務を全部全うしていくというのは、きちんと考えていかないとけないかなというのは思ひまして、職員の労働環境とかそういうのはあると思って。

ですけども、先ほど聞いた2割ぐらいが武蔵野に住んでいらっしゃるということで、実際に住んでいらっしゃるの、市の職員の声が実際に反映されるかどうかはわからないですけども、そういうことも考えられながら、いろいろ業務とかに携わっていらっしゃるのかなというのは思ったので、そういうところの強みも、本当は割合が決まっているのかどうかかわからないですけども、もうちょっと割合を上げてもらって取り組んでもらったらいいかなと勝手に思っているんですけども。

あと、古い建物は、武蔵野市だけではなくて、例えば、水道管とか、日本全国の話になっているじゃないですか。ですから、確かにみんなで考えて、新しいものを建てなくても、ほかのもので転用できるのであれば、そういうことを考えていたりして、かけなくてもいいものはかけない。でも、必要なものは絶対必要だというところの判断をきちっと決めていけば、先ほどM委員が減らすのはちょっとねと思われたんですけども、その地域の中で代用というか、そういう案があるのであれば、そういうものを取り組んでいって、お金が少しでも節約できるような形であれば、やっていけばいいと思いますし。

逆に、この話とはまた別ですけども、武蔵野市民をもっと増やしていって、武蔵野市民であることによって、非常に生きがいを持たせたとか、すごく暮らしやすいまちだということであれば、定着率が高くなっていきますので、税収が実際に上がっていきますし、そういうところでの観点と両輪でやっていく。そういう武蔵野市のつくり方を考えていけば、

確かに古いから、危ないからというので、それは喫緊の問題かとは思いますが、そういう観点の考え方も必要かなとは思いますが。

○N委員

武蔵野市民になりたい人を増やすというポイントと、他の施設で代用できる可能性を探ったりするというのは、つながりがありますか。

○P委員

関連性は、要は、武蔵野市民を増やすことによって税収が増えるので、もちろんそういうような工事に回すことは考えられないことではないということもあるし。

○O委員

財政をよくして、要らないという設備、要らないかどうかわからないですけども、できるだけ残して使えるような状態にしたいとか。

○P委員

そうですね。例えば、コミセンとかでも、武蔵野市は結構お金持ちの方が多いと言われるじゃないですか。例えば、空き家問題があった場合に、実際はものすごく広いお家を今使っていないくて、小さなコミセンとして使えるよみたいなことであれば、そういうところを使っていったりとか。大きな公会堂とかは全然別なんですけれども。

あと、空き家だったら、個人でフリーランスでやっているような方々が、何か仕事を始めるときに、そういう土地を使わせてあげたり、市民のイベントとかに使わせてもらったりして、そこを拠点にしてまちの活性化を図ったり、そういうことだったら使っていいよということで、絶えず使わせるようなことであれば、空いているという意味合いではないので、何もないけれども、そこがあれば、子どもは遊んでいいよとか、そういうようなことに使えるかな。もちろん両隣の方には、うるさいとか、非常に迷惑かもしれませんけれども、そういう違う観点の使い方もあるのかなとは思いますが。

○N委員

ありがとうございます。

○Q委員

1つは、先ほどR委員がおっしゃったように、改築計画がありますね。60年目安で。132ページ。一応、耐用年数60年ということで更新を考えているようなんですけれども、全部が60年と一律に考えていいのかどうかというのは、もう少しきちっと検証しつつ、なるべく延命できるものは延命するし、あるいは、小学校とか中学校の場合は、人口統計から

も統廃合するというのは難しいのかもしれないですけども、仮にそういうような状況があれば、統廃合も検討して、建築計画を練り直すとか、もう少し融通性を持ったほうがいいのではないかという気がしました。

もう1つは、114 ページの職員の多様な人材確保の話ですけども、財政の支出として人件費が相当な割合を占める。職員の方の給与に相当する部分が大きいのと思うんですけども、武蔵野市はかなり高額ですよ。私が大学のころは、武蔵野市の退職金が出ましたよね。清掃の方の退職金が数千万円だったりとか。それはもう改善されたんですけども、今も平均すると、多分、全国で上から5番目ぐらいに入るような給与水準になっています。もちろん、きちんとやられているから、それをすぐに落とせとか、そういう話ではないんですけども、全国の市区町村の水準もあろうかと思しますので、その見直しも図る。

○N委員

見直せと。

○Q委員

減らすという意味じゃない。見直す。本当に適正なのかどうか。適正化を進めると書いてあるんですけども、じゃ、具体的に何をやるのかというのがわからないですよ。人の数を減らしていくのか、賞与を減らしていくのかとか、いろいろあるかもしれませんが、実態として本当の適正化を進めていただきたい。

○N委員

ありがとうございます。

○R委員

1つ言い忘れたんですけども、産業政策。武蔵野市の産業政策というのはあるのかなという話です。これを見て私はびっくりしたんですけども、これは資料編。製造業の従業員数の推移とあるんですね。平成19年までは5,500人。それが27年にはたった413人。5,000人いたのが413人。横河電機というのがありますよね。三鷹の駅から。

○Q委員

あれは製造じゃないんですかね。

○R委員

多分あそこが最大手だったと思うんですけども、もう海外に行ってしまったということですよ。出荷高1,300億円あったのがたった83億円です。

○N委員

その減ることによって税収が減ってはいないんですか。

○R委員

僕はこれが法人税かどうかわからないですけども、要は、個人が180億円で、法人が24億円。固定資産税も相当企業が負担しているのだと僕は思うんですけども、要は、武蔵野市はもう産業は要らないと言っているんですか。どこにも産業政策と書いていないということです。産業を支援するとか。もちろん中小の製造業もあるわけですね。ですから、中小の製造業も、いよいよ土地が高くなってしまって、なかなか武蔵野市でできないということになって、製造業がいなくなってしまうということ、イコール人口が減るということですね。別の人口は増えているかもしれないけれども、税収が減るということですから、僕は、横河電機を支援しろと言っているわけではないですけども、何か産業政策というのが武蔵野市の中にあっているのではないのかと思うんです。

○N委員

わかりました。産業政策。

○R委員

これを見ると愕然としますよね。武蔵野市は住宅地だから要らないんだと言っているのか。わからないんですけども。

○N委員

ひよっとしたらきちんとあるかもしれないけれども、表れていない。ないというのは確実なんですか。

○R委員

やっていたとしても、効果は表れていない。そういうふうに考えている。ここには特に書いていないと思うんですね。そのうち本社も移転しますというと、法人税が本当になくなってしまおうと思うんです。

○O委員

なくなってしまうですよ。横河さんが出ていく。

○Q委員

今、大きい企業は横河ぐらいですからね。

○R委員

NTTの研究所がありますよね。でも、あれは製造業じゃないですね。これは最大手の横河が海外に行ってしまったということだと思っただけけれども。それにしても中小の製造

業がまだまだ数はあるので、どう支援していくんですか。家賃が上がってしまったり、土地が上がってしまったり、後継者がいなかったりと、いろいろな問題があると思いますけれども、産業政策をどこにも書いていないというのはどういうことかなという。

○M委員

産業政策は市民生活のほうに入っています。

○R委員

ごめんなさい。失礼しました。83 ページか。

○M委員

ただ、工業については、確かに土地の問題ですよ。

○R委員

こちらは商業が多いですね。

○M委員

なので、例えば、工場を広げたいけれども、土地がないとなったときに、市の努力で何とかなるものではないですよ。

○R委員

ちゃんと税制で少し支援するとかね。

○M委員

いや、工場を広げるために広い土地が欲しいとなったときに。

○R委員

土地がないとね。

○Q委員

余地が今はないですよ。

○M委員

そうです。そういう意味合いで、市として打つ手がないという。

○N委員

多分、武蔵野市は、いわゆるものづくりのまちとしてのまちづくりを考えていないのではないかな。それは多分、土地の問題もあるし、工場誘致がまず難しいわけだし、今ある工場は海外移転してなくなってって、別な商業施設になるかもしれない。そのほうが付加価値が高いですから。そうすると、製造業の従事者が減るのは当たり前というような認識が政策づくりに反映しているのかもしれない。ちょっとわかりませんが。

○R委員

だから、繰り返しですけれども、大手を誘致しろということではなくて、地道にやっていらっしゃる製造業が市内にあるはずなんです。

○N委員

製造業って、中小企業の実態がどれほどか。そんなにありますか。ものづくりをしている。

○R委員

これは見ている限りはほとんどない。400人しかいないんだから。

○N委員

それをもう少し振興したほうがいいですかね。

○R委員

どう言ったらいいですかね。1つは税収、1つは人口にかかわってくるわけで、このままでいいと思っているのか、あるいは、何か問題意識を持っているのか。問題意識を持っているなら、それはつまびらかにしてほしいなど。これを見る限りは、多分これは商業ですよ。

○M委員

商業というか、ここしか産業振興で。今頑張れる余力というところですね。市として。

○N委員

わかりました。

僕のコメントとして、そんなに重複するわけではないとは思っただけでも、1つだけ、さっきのM委員のお話の広聴というか広報のコンテンツのことが私自身はとても気になっているんです。どういう形で効果的にメッセージが発信できるか。もう策がないかもしれないと言われたので。それは多分、専門の人を雇っていないのではないかと思うんですね。どういうことかという、今、肘で突つような英語が、ナギングというのがあるらしいんですけども、ちょっと押してやる。気づきで、発信が、要するに、上段に構えてこうしようではなくて、別なメッセージで若い人たちに伝えるという広報の手法があるらしいんです。それは、専門の人が広報のことを考えているんだと思うんですね。その効果が少ないとなると、何かもう1回、さっきのお話で僕はレビューをしてほしいと思います。やり方プラス、コンテンツは。それが1つ。

あと、いろいろな問題で、さっきのアカウントビリティで評価手法がわからないという

のがとても訴えたいことだったんですね。

最後に、社会貢献事業をもう少し活用できないかと前からずっと思っていて、さっきの調布市のNTTが小学校で発電施設をつくって、これはNTTがお金を出しているんですね。財政の厳しい中で、どういうふうにして効果的な食育なり学校教育を、市民と一緒に、かつ、企業と一緒にできるような可能性を考えてほしいというのが2点です。

皆さんの意見が出たので、どうしますか。ポイントを絞って話しますか。それとも、今、一番挙がっているのは、リフォームの話ですね。結構時間が過ぎています。それと、あと、プロセスが明確でない。住民参加のプロセスがよくわからないというのが出ました。

それから、出ている中では、指定管理者の実態がよくわからないというのも、同じく、実態がわからないというのは、何をやっているかが伝わらないということですね。成果が出ているのかどうか。あるいは、安いのか。そういうのを明確にしてほしいという意見が出ました。

あと、公聴会のあり方というのは、まさに、あるいは広聴の充実というのは、広報も含めた1つだと思いました。

それから、市の職員の人材育成というところで、もう1つは、人件費が高いと、市の職員の皆さんの働き方、生活の保障みたいなのをどうしたらいいのかみたいな話も出たんですけども、あと、何か抜けているようなところがありますか。

透明性を持たせた説明責任が足りないとか、あと、計画があるがゆえに、減らされないように頑張るといふ負の活動が出てきてしまって、それはいいのかどうか。

○M委員

減らされないように頑張るといふ活動ではなくて、必要かどうかの議論が進みにくくなるというところがあると思っているんです。

○Q委員

一旦決まったものに対して、それがありきになってしまって、状況が変わっても。

○M委員

あるものを減らすだと、もちろんそっちの守りに入ったり、あとは、本当に必要なものだけど、でも、床面積が増えるからだめだよというふうには、そこだけで足切りになったりとか。

○N委員

その解決策というのはどういうものがあるんですかね。

○M委員

柔軟な。説明が難しいけれども。

○Q委員

これは毎年見直しじゃないんですよね。一旦決まったものが何年間の相当長い計画なんですよ。

○M委員

4年でしたっけ。4年か5年ぐらい。

○Q委員

4年たたないと見直さないという。

○M委員

最初にできた経緯というのが、国から下りてきたことで、国に対して結果を報告しなければいけないというのがあるので、縛りがきつくなかったという部分があるんですね。それで多分第2期のほうはちょっと書き方が緩くなっているのかなというのはあるんですけども。

○O委員

国に対して報告するのは、何を。

○M委員

私もすごい昔の話で忘れてしまったんですけども、国が各自治体に公共施設等総合管理計画をつくりなさいというのがあって、いついつまでにつくると、計画を回すためのお金が下りるみたいなのがあって。

○Q委員

それは基本的に防災の観点から国から言われるんですか。

○M委員

防災ではなかったと思います。財政的なものだと思うんですけども。

○P委員

お金がどこから出るか。

○Q委員

きちんと計画を立てたところには出しますよということですね。

○M委員

そうです。

○P委員

でも、それは聞いてみたほうがいいかもしれないですね。

○M委員

すいません。当時はとてもよく覚えていたんですけども。でも、結構そういうのがあ
るので。そういうのも含めて、私は広報で自分が知りたいと思った情報を快適に掘りやす
くしていくような仕組みがあるといいなと思ったのと、広報の解決として、打てる情報の
ためのいろいろな手段は整っているんで、あとは、例えば、ホームページを、プロの意見
を取り入れて、こういうふうにリンクを張らせていったり、こういう構成にすると、使う
人が快適ですよとか、あとは、例えば、議会で決まったことを、1行ニュースじゃないで
すけれども、今日はこんなことがこうして決まりましたよというのがあって、1行読んで、
興味のある人がそれをさらに掘り下げていけるようなものがあると、知らなかったという
のは少ないのかなというふうに。

○N委員

さっきの話ですと、LINEとかティックトックを導入してと言っていましたよね。お
そらくそれは市職員だけの能力ではできないから、外注したり、あるいは専門家が結構入
ってはいないんですかね。

○M委員

いないですね。市の方がご自身でつくられています。

○Q委員

ユーチューブのほうもつくっている。

○M委員

はい。だから、私、そんなに職員さんの給料は高いかなと思うところと、あとは、考え
方として、行政の給料が高いことに対して問題意識を持つのではなくて、それを基準に上
がっていけばいいじゃんというふうに思うんですね。今、物価が上がっているのに賃金が
上がらないというのがあるじゃないですか。それを考えると、そこは先を走ってもらって、
もしこういう部門、働いていなくて困るというのであれば、それは個別で文句を言って改
善してもらおうというのでいいのではないかと思うんですね。

○P委員

一般企業のほうが低過ぎるということはあるかもしれませんね。

○M委員

そうです。

○N委員

それって、今の日本の社会の現状が給料が上がらないと言っているわけだから、下げろという議論になりますかね。

○P委員

ならないと思いますね。

○O委員

人にもよるんでしょうけれども、給料というのは、どこの会社でも、どの世の中でもそうですけれども、働いている人もいれば、それに見合って働かない人もいます。だから、それは中の評価システムで。信じたいのは、これを見ていて、武蔵野市の職員の方、随分こんなときもやっているし、どういう休みの体系かわからないけれども、大変だなと思って。だから、給料分は働いているのではないかと。

○Q委員

評価制度を入れると書いてあるけれども、今、入っていないということなんですか。そんなことないんでしょうか。

○M委員

それがあれじゃないですか。

○O委員

評価する側がいい人と悪い人がいるわけだから。

○N委員

評価する人が何ですか。

○O委員

評価する人が本当に評価できる人とできない人といいますから。

○P委員

公務員の何かがあるんじゃないですか。

○O委員

年数とか職責とかがあるから。

○P委員

一般的には言えないと思います。

○O委員

そうですね。でも、大体そうだと思うんです。

○N委員

あと、例えば、DXの問題を誰も語らなかつたんですけれども、どうですか。DXだったっけ。デジタルトランスフォーメーション。要するに、電子化。一冊出ているんですけれども、実態が。この問題は、僕は、みんなどこの自治体も言っていると思うんです。でも、セキュリティの問題だとか、実際にどこまで武蔵野市が。それですかね。

○M委員

はい。

○N委員

ざっと目を通させていただいたんですけども、これは難しいなというのが実感なんですけど、どうなんですかね。あまり議論しないほうがいいですかね。ごめんなさい。わからないのでやめましょうか。

○M委員

市のシステムをどこに置いてあるのかという話は前に出たことがあって、例えば、東日本大震災並みの何かがあったときに、東京が直撃されたときに、市のシステムをどこに逃がしているのかという話があって、具体的な場所は忘れてしまったんですけども、わりと近くで、えっ、そんなちょっとしか離れていないの？みたいなのがあったんですね。そういうのもこれからは考えていかなければいけないのかなと思いますね。

○N委員

ただ、この問題を市民が議論する問題なんですかね。市民が、私たちが何か物を申すべきなのかな。デジタルトランスフォーメーションすることによって、確かに、例えば、ワクチンの申し込みとか、そういうシステムができて、ある意味ではとても便利ですよね。僕らはもう電話しなくてもいいし、とてもうれしいと思うんですけども、どこまでやってほしいとか、どこまでできるんだと、予算もわからないし、どこが一番大切なのかがわからないんですよ。

○P委員

急には進められないと思うんですけども、例えば、この間の災害があったときに、給付金とかが個人のほうは全部なくなってしまったというか、どこかにいっちゃって、すぐ給付金とか援助とかができない状態ではまずいから、それがすぐ情報がいくようにとか、できるようにという観点でいけば、やっぱり進めていかなければいけないし、セキュリテ

ィはもちろんすごく大事なことですけれども。だから、災害の点からいったら、早急に進めなければ、路頭に迷ったときに、どういうふうに役所の人も出かけてやって……。

○N委員

災害の領域が優先順位ですかね。

○P委員

私はそう思いますけれども。何か本当に緊急事態があったときに、市民の生命線というか、生活のバックアップをするための情報というか、そういうものを守っていくという観点では、それなりには進めていかなければいけないと思うんですけれども、セキュリティの問題が一番怖いかなというのはあります。

○M委員

多分これが入っているのは、自治体クラウドだと思うんですね。だから、これに移行するときに、市民としてどういう点が気になっているかという意見出しが欲しいのではないかなと思うんですね。

○N委員

それは何て言うんですしたっけ。

○M委員

地方自治体の機関業務システムの統一標準化に向けたスケジュールというのがあるので。

○N委員

これは、武蔵野市だけではなくて、ほかの地域との連携で、瞬時にどこがどうなっているかがわかる。それは必要ですよ。

○P委員

コロナのことも情報を連携して、すごく便利でやっていたとか、そういうこともニュースになっていました。

○N委員

職員の仕事の効率化とか、尼崎市がUSBが見つかって喜んでますみたいなレベルの話だと、僕らにはちょっと判断ができないのかなと。進めるべきだとは思いますが、よくわかりません。

そろそろまとめなければいけないので、もう1回整理をしてみますと、公共施設の改革、あるいはリフォームが財政的に非常に難しくなりますと。これをしっかりと見守っていきたいというのはいいですか。1つR委員から出ましたけれども。その説明責任的な義務

をきちんと果たしていただきたい、みたいなことですかね。武蔵野市民にとっては。

○R委員

説明責任のところは、どっちかという行政手続。さっき資産の売却の話がありましたけれども、それはワン・オブ・ゼムで、行政手続の透明性という話です。広報としては十分やっているのではないかという話ですけども、個別の行政判断が、僕は、あの方がおっしゃっているのが正しいことをおっしゃっているかどうかはよくわかっていないけれども、個別の行政判断の透明性みたいなものは必要なのではないかと思います。

○M委員

それも議会ではやっているんですよ。なので、そこで決まったというのをその日に、今日こういう会議があって、こういうことが決まりましたというのが、すぐに出せばいいのかなと。

○R委員

議会の承認を得てやっているんですね。

○M委員

はい、そうなんです。

○R委員

大きな案件だからね。市議会がオッケーと出しているんだから、市としては合理性がある話なんだろうと思うけれども、一部に納得しない人がいるということなんですね。

○M委員

そのときに、いや、聞いていない。こんな進み方をしているなんて知らなかったという話になるのを、私はいつももどかしい思いで聞いているんです。多分、職員さんとかもそうなのかもしれないんですけども。

○N委員

2つ目が、広聴の充実ということで、知らなかったという現状が多いんだけど、これ以上やりようがないとは思いますが、もう少しコンテンツなり、プロの活用をしていただいてはどうかと。違いますか。うまく理解できていないかもしれない。申しわけない。

○M委員

コンテンツはそろっているんですけども、整頓されていないんです。

○Q委員

やさしくない。

○N委員

これ以上やりようがないんじゃないかと、効果的にするには整理整頓が必要だ。

○M委員

いっぱいバーツと積み上がっているんですけども、どこに何があるかがわからないというのと、これを引っ張り出したときに、これとこれもすぐに出てきてほしいというのが出てこない。

○P委員

リンクの設定の仕方とかありますよね。

○N委員

リンクの仕方ね。それは多分、プロの人が。

○P委員

そうです。

○N委員

その整理整頓をするのは、これもプロなんですかね。それとも職員。

○P委員

もう少し市民の立場に立った、利用者の立場に立って構成すれば、もう少しすっきりするかもしれない。

○M委員

そうですね。それだけでもかなり違うと思いますね。

○P委員

多分すごい大変なんだろうなと思います。アップアップなんだろうなと思います。

○N委員

職員のことに関して、どういうふうにまとめますかね。市の職員の人材育成、労働環境の改善。これは取り上げないほうがいいですか。黙っていますか。

○P委員

状況がわからないので。

○N委員

でも、P委員自身は何か不満があったわけですか。

○P委員

そういうわけではないですけども、市政のところにかかわっていらっしゃるのだった

ら、一人ひとりの質を上げていくことによって、市民サービスにつながるのです。もちろん保健師とか、建築のほうを例としては挙げているんですけども、それだけではないと思います。一般の事務の方だって、幅広い見識がないと、市民サービスにかかわれないので、お休みでこういうふうに出てきていただいて、本当に頭が下がる思いなんですけれども、市民が話しているようなところになるべく若い人が、就任した後に、1年間は、武蔵野市を知るためにそういう場に積極的に送られるとか、そういう工夫をして、武蔵野市がどういところなのかというのを知ってもらえるような施策とか、教育とか、そういうのが必要なのかなと。

○N委員

オン・ザ・ジョブの改善みたいなことですかね。最初に入った人が武蔵野市をもっとよく理解してもらおうようなプログラムを考えたほうがいいという話ですか。

○P委員

市民との交流の場とかに積極的に行かされるとか、そういうような工夫が。

○Q委員

武蔵野市の市民を知るみたいな。

○P委員

そうですね。いいのかなと思っています。

○N委員

ありがとうございます。

あとは、僕自身は、社会貢献事業との協働をもう少し訴えたいなと思っているんですけども、つけ加えてもよろしいですか。

○Q委員

もちろん。

○P委員

意見の発表ですから、どうぞ。

○O委員

まとめなくても、出た内容をそのまま言えば。

○N委員

僕はNTTの調布のかかわり方とかで、実は教育のところ、5大学構想というのがあるんですね。武蔵野の5大学。産学連携があって、なんで市民と大学との協働がないのか

というのが不思議なんです。協働というのは、参加だけが協働ではなくて、組織も入ってほしいなと思って、会社なり社会貢献事業、あるいは大学との協働、そういうことも行財政の中にきちんと。教育のところにはうたってあるんですね。連携を強めると。実際にオープンキャンパスに市民参加ができてきているのかとか、例えば、成城大学。特に、女性のジェンダーに対する東京女子大の活躍はすごいんですよ。そういうメッセージは伝わってこないんですね。そういった意味で、CSRもさることながら、組織、大学との協働も言いたいなというのがありました。それを言いたいなと思います。

あと、何か足りないようなところがありましたら、追加してください。今、大きな骨格が4ですね。アカウントビリティと、公共施設のリフォームの話と、広聴の話と、人材育成の話。最後、加えて協働の話。大学なり社会貢献事業との協働。この5つでよろしいですか。あまりよくまとめられるかどうか自信はありませんけれども。DXはいいですかね。

○Q委員

はい。

○○委員

置いておきましょう。

○N委員

触れない。

○R委員

税収の確保という意味で、製造業の支援策というのかな。

○N委員

産業政策はあるかと。わかりました。

○R委員

製造業ですかね。税収という切り口でいいと思うんですけども。どんどん減っていつてしまうんじゃないですかという。

○○委員

これは中国とかに工場を移して、本社がこっちにあると、税収は本社があるところなんですか。

○R委員

本社で納めているから、一定のは落ちるとは思うんです。

○N委員

それは6つ目につけ加えさせていただきます。

<発表>

○N委員

では、時間も押し迫っていますので、Cグループから簡潔に6点紹介したいと思います。

1番目は、公共施設のリフォーム的な話が、総合管理計画というのが記されているんですが、どうも公共施設を減らさなければいけないという1つの大きなプランがある中で、実際に減らしていくときのアカウントビリティというか、説明が今までうまくされていないのではないかという意見が出ました。それは、市有地で使わない土地を売却した、この前の会議でヨドバシカメラの話が出たんですけれども、ああいうことも、きっと将来起こり得る話であるから、もう少し説明責任の意味というか、内容をきちんと精査していただきたいという意見が1つありました。

2つ目。広聴の充実という話です。いわゆる広報、インターネットを通したりする市の活動に関して、非常によくやっている、よくなっているという実態があるんですが、しかしながら、これはどこに行ったらどの情報が入手でききるかというのがよく整理されていないのではないのでしょうかという意見が出ました。

それに対して、もう少し市民の意見を聞いたほうがいいよねという意見があったと同時に、もう少しお金を使ってプロを雇いましょう。広報というのは素人ではなかなか効果を上げにくいものだと思うんですね。特に、市民がどういう反応を起こすかとか、何に気がつくかとか、発信している内容が本当に心に触れるものなのかどうかとか、そういった視点からのプロが活用が必要ではないかという意見がありました。

3つ目は、市の職員の人材育成。労働環境の改善、市の職員の方たちは頑張っておられる。いい武蔵野市を構築していくためには、市民もさることながら、職員の能力も高めるような活動に、もう少しみんなが支援をしていくべきではないか。例えばということで、新しく武蔵野市に入った職員の方たちが、市民と交流するような場をつくる、オン・ザ・ジョブ・トレーニングの期間にいろいろな方たちと触れ合うプログラムがあってもいいのではないか。

例えば、職員参加、議員参加、市民参加という3つの参加の要素があるんですが、実際に職員の参加は、どこまでどういうふうになされているんだろうかというのが私たちにはよくわかりませんという意見が出ました。これは、職員の人が物を申せない環境があるの

ではないかという意見も出ました。

次が、先ほどと重複するんですが、アカウントビリティというのは、数値化しなければ意味がない。なるべくわかりやすく、アカウントティングですから、説明責任の方法をもう少し検討してほしい、明確にしてほしいという意見が5つ目です。

最後に、市民参加の延長上にあるのは、大学との連携とか、企業との連携、武蔵野5大学構想がどこかに書かれているかと思うんですけども、実際に大学がどこまで市の、産学協働はやっているんだけれども、市民との協働がどこまで進んでいる。オープンキャンパスに市民はどこまで参加できるのだろうか。いわゆる参加という意味の範疇で、CSRと大学のことが議論されました。

最後のCSRの話で、調布市の発電の話がNHKで出ていたんですけども、小学校にNTTが発電施設をつくって、30戸の家庭に電力を送る施設を小学校につくる。こういった社会貢献事業的なものを何とか取り入れていけないだろうかという点がありました。

それから、DXについて語ったんですが、デジタルトランスフォーメーションについて少し語ったんですけども、私たちには難しいという結論になりました。判断できる能力が、申しわけないけれども、私たちのグループには欠落していました。とても大事だということも認識しました。ありがとうございました。